

本部事務局

【総括】

事務局は、指定管理者と自立運営の両面から更なる経営改善に努め、運営の効率化、円滑化及び安定化を推進するとともに、各施設・事業所において、入所者や利用者の安全確保に努めながら、より良いサービスが提供できる環境づくりに努めてきた。

令和元年度においては、かねてからの課題であった長安寮の経営改善について、尼崎市と協議の場を持ち、「長安寮のあり方調査検討委員会」を立ち上げた。コンサルティング会社と契約をし、経営改善の方法、今後のあり方について検討を行った。

事業団の基本方針や重要施策を協議する運営推進会議においては、職員の能力開発やモチベーションの向上を目的として導入を検討していた「人事評価制度」が形となり、令和2年度から試行運用予定である。

また、改革改善検討会議では、自主経営施設の課題の整理や、職員研修計画の作成、中堅職員会議（ええあん9）の持ち方、今後の広報活動のあり方等について検討した。

令和2年1月より、新型コロナウイルス感染症が世界的な問題となり、事業団においては、社会情勢と併せて、その都度、市と対応策について協議を行ったが、3月3日からは、たじかの園、あこや学園の休園や、身体障害者福祉センター、デイサービスセンターにおける一部事業の中止を余儀なくされた。入所施設においても感染拡大防止の取組を徹底するとともに、行事の縮小変更・中止を決定するなどの対応に迫られた。事務局としても施設支援を行う立場から施設運営に不可欠となるマスクやアルコール消毒液といった消耗品の確保に努める一方、利用者の不安やストレスを軽減するため、たじかの園で先行して行われた、インターネットを用いたコミュニケーション方法の導入（動画配信及び Web 会議ツールの活用等）の支援、感染症拡大防止策として、職員の時差出勤、他施設の職員が応援に行ける体制づくりといったことに取り組んだ。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	収支を意識した予算執行、事業運営を行い、経営基盤の安定化を目指す。	令和元年度においても管理職会議で各施設における運営の情報共有を行い、また各施設の四半期ごとの予算執行状況を提示し、計画的な執行を心がけた。 なお、近年の長安寮の入所者数の減に伴う収入の減と施設の老朽化による管理費の増が事業団の収支全体にも大きく影響している状況が続いており、令和元年度からはコンサルティング会社を交え、今後のあり方について市と協議を進めているところである。

目標項目		達成状況
2	施設間の人事交流を促進するとともに、新たな人事評価制度を検討するなどの取組を進め、人材の確保・育成や定着と組織力の向上を図る。	例年実施している職員交流研修に加え、令和元年度においては特に職員の欠員分のフォローや、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うリスク管理の観点から、職員の他施設への応援を試行的に実施した。 また、人材育成・定着の取組としては、人事評価制度の構築及び新規採用職員へのメンター制度を導入した。 人事評価制度については、令和2年度から試行予定である。 メンター制度については、新規採用職員のフォローアップに加え、メンターとなった職員自身の意識向上につながっている。
3	職員の資質向上のため、職責・階層に応じた年間研修プログラムを作成し、全職員がそれぞれに必要な研修を受講する機会を提供する。	職員の職責・階層ごとに必要なスキルを確認し、尼崎市、兵庫県社会福祉協議会、全国社会福祉事業団協議会、社会福祉法人経営者協議会等が主催する研修と紐づける形でプログラムの作成を行った。 令和元年度は、研修の紹介が主であったが、令和2年度は、このプログラムをもとに、積極的に職責に応じた研修への参加を促進する。

【理事会等の開催状況】

1 理事会

開催日時	場 所	審議事項
第1回 R元. 5. 31 (金) 15:00～	尼崎市議会棟 西会議室	報告第1号 専決処分(社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団経理規程の一部改正)について 議案第1号 平成30年度社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団事業報告について 議案第2号 平成30年度社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団収支決算について 議案第3号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団評議員選任候補者の推薦について 議案第4号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団令和元年度第1回評議員選任・解任委員会の開催について 議案第5号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団役員選任候補者の推薦について 議案第6号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団令和元年度定時評議員会の開催について

開催日時	場 所	審議事項
第 2 回 R元. 6. 25 (火) 15 : 15～	尼崎市議会棟 西会議室	(1) 理事長の選定について (2) 副理事長及び常務理事の選定について
第 3 回 R元. 7. 29 (月)	決議の省略	議案第 1 号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業 団評議員選任候補者の推薦について 議案第 2 号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業 団令和元年度第 2 回評議員選任・解任委員会の 開催について
第 4 回 R元. 11. 19 (火) 10 : 00～	尼崎市議会棟 西会議室	報告事項 理事長及び業務執行理事に係る業務執行状況 の報告について
第 5 回 R2. 1. 22 (水)	決議の省略	議案第 1 号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業 団評議員選任候補者の推薦 について 議案第 2 号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業 団令和元年度第 3 回評議員選任・解任委員会の 開催について
第 6 回 R2. 3. 30 (月) 13 : 25～	尼崎市議会棟 西会議室	議案第 1 号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業 団職員就業規則の一部を改正する規則につい て 議案第 2 号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業 団職員給与規程の一部を改正する規程につい て 議案第 3 号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業 団特別職員就業規程の一部を改正する規程に ついて 議案第 4 号 令和 2 年度社会福祉法人尼崎市社 会福祉事業団事業計画及び予算 報告第 1 号 長安寮の将来のあり方調査研究事 業業務委託について 報告第 2 号 新型コロナウイルス感染拡大防止 の対応等について

2 監事監査

開催日時	場 所	審議事項
第 1 回 R元. 5. 24 (金) 10 : 00～	尼崎市立身体障害者 福祉センター 研修室	平成 30 年度社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 事業報告、財産目録、貸借対照表及び収支計算書 の関連書帳簿の監査

3 評議員会

開催日時	場 所	審議事項
定時評議員会 R元. 6. 25 (火) 13 : 30～	尼崎市議会棟 西会議室	報告第1号 平成30年度社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団事業報告について 議案第1号 平成30年度社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団収支決算の承認について 議案第2号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団役員の選任について

4 評議員選任・解任委員会

開催日時	場 所	審議事項
第1回 R元. 6. 6 (木) 10 : 00～	尼崎市立身体障害者 福祉センター 日常生活室	議案第1号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 評議員の選任について
第2回 R元. 8. 9 (金) 9 : 55～	尼崎市立身体障害者 福祉センター 日常生活室	議案第1号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 評議員の選任について
第3回 R2. 1. 31 (金) 9 : 55～	尼崎市立身体障害者 福祉センター 日常生活室	議案第1号 社会福祉法人尼崎市社会福祉事業団 評議員の選任について

5 役員等の退任・選任の状況

選任役員等（五十音順）

(1) 就任役員

就任日	役員	氏名
R元. 6. 25	理事 6名	足田 剛志 池田 輝生 北江 有弘 小西加保留 辻本 正樹 山本 博久
	監事 2名	喜田 完二 三宅 由佳

(2) 就任評議員

就任日	氏名
R元. 6. 6	塚本 英徳
8. 9	須田 和
2. 1. 31	濱崎 雅子

(3) 退任評議員

退任日	氏名
R 元. 6. 6	御崎 成亮
8. 9	開 康生
2. 1. 31	西 政男

【監査状況及び結果】

1 尼崎市健康福祉局法人指導課による養護老人ホーム長安寮への指導監査

令和 2 年 1 月 20 日指定居宅サービス事業者等に対する指導監査を受けた結果、下記のとおり指摘を受け、改善に向け取り組む。

指摘事項	改善状況の概要
常勤の看護師を早急に配置すること	随時募集をかけつつ、様々な求人媒体を活用し、確保に努める。
身体拘束等の適正化のため、「検討委員会を 3 か月に 1 回以上開催」、「研修を年 2 回以上行う」こと	身体拘束適正化委員会を定期開催する。 (3 か月に 1 回以上) 定期的な教育・研修を実施する。(年 2 回)
事故発生防止のための検討委員会を設置し、定期的を開催すること	事故発生防止委員会を月 1 回開催する。 毎月、ヒヤリハットや事故報告をとりまとめ、対策・改善の検討をする。

2 尼崎市健康福祉局法人指導課による母子生活支援施設サン野菊尼崎への指導監査

令和 2 年 2 月 14 日児童福祉施設に対する指導監査を受けた結果、概ね適正な事業運営が確保されていると認められた。

【職員状況】

1 採用

採用日	採用区分・人数	配属先
H31. 4. 1	正規職員 14 名	サン野菊尼崎 1 名、身体障害者福祉センター 2 名 尼崎学園 2 名、たじかの園 5 名、長安寮 1 名、 デイサービスセンター 1 名、あこや学園 1 名、 子どもの育ち支援センター 1 名
	嘱託員 5 名	たじかの園 3 名、あこや学園 2 名
R 元. 6. 1	嘱託員 1 名	たじかの園
8. 1	正規職員 2 名	デイサービスセンター
R2. 1. 1	正規職員 1 名	長安寮

2 退職

退職日	採用区分・人数	所属
R 元. 5. 31	嘱託員 1 名	たじかの園
8. 31	嘱託員 1 名	長安寮
10. 11	正規職員 1 名	たじかの園（相談支援）
11. 22	正規職員 1 名	尼崎学園
11. 30	正規職員 1 名	デイサービスセンター
R2. 3. 31	正規職員 4 名	尼崎学園 2 名、たじかの園 1 名、あこや学園 1 名
	嘱託員 4 名	サン野菊尼崎 1 名、たじかの園 1 名、あこや学園 2 名

3 職員配置状況（令和 2 年 3 月 31 日現在）

福祉分野の担い手が雇用困難な状況であり、中でも、尼崎学園の指導員と長安寮の看護師は欠員が続いている。尼崎学園については、職員の超過勤務やシフトを調整することで対応し、長安寮については、短時間アルバイトや派遣会社を活用しながら、サービスを提供している状態である。また、メンタルヘルス不調等により現場を離れざるを得ないケースも増えている。

必要に応じて、事業団職員による人的支援や採用試験を随時行うことで対応したが、今後、人材確保への対応として、広報活動の充実化、採用試験の早期実施を行うとともに、メンタル不調の抑止に向けてメンタルヘルス対策を推進していく。

所属	正規職員	嘱託員	アルバイト	計
本部事務局	7(※)	1	1	9
母子生活支援施設サン野菊尼崎	5	2	4	11
身体障害者福祉センター	8	2	4	14
尼崎学園	17	2	21	40
たじかの園	18	5	6	29
長安寮	6	4	11	21
身体障害者デイサービスセンター	5	0	11	16
あこや学園	10	15	3	28
相談支援事業担当	7	4	1	12
合計	83	35	62	180

職種別内訳

所属	職種別
本部事務局	常務理事兼事務局長 1、次長 1、事務員 3、O T 2 (※)、S T 1 (※)、アルバイト 1（事務員）
母子生活支援施設サン野菊尼崎	施設長 1、母子支援員 2、個別対応職員 1、少年指導員 1、保育士 1、用務員 1、アルバイト 4（専任宿直、保育士等）

所属	職種別
身体障害者福祉センター	所長 1、サービス管理責任者 1、指導員 4、PT 2、OT 1、保健師 1、アルバイト 4（事務員、指導員 等）
尼崎学園	園長 1、副園長 1、指導員 13、栄養士 1、調理員 2、事務員 1、アルバイト 21（個別対応職員、臨床心理士、調理員 等）
たじかの園	園長 1、管理医師 1、児童発達管理責任者 1、看護師 1、PT 4、OT 3、ST 3、臨床心理士 1、栄養士 1、指導員 7、アルバイト 6（事務員、調理員、託児保育士 等）
長安寮	寮長 1、生活相談員 2、介護支援専門員 1、支援員 5、栄養士 1、アルバイト 10（看護師・支援員等）
身体障害者デイサービスセンター	所長 1、事業担当係長 1、サービス管理責任者 1、支援員 2、アルバイト 11（看護師、事務員、指導員、運転手 等）
あこや学園	園長 1、副園長 1、児童発達管理責任者 1、指導員 18、栄養士 1、調理員 1、看護師 1、臨床心理士 1、アルバイト 3（事務員、バス添乗員他）
相談支援事業担当	係長 1、相談支援専門員 10、アルバイト 1（事務員）

(※) 子どもの育ち支援センターいくしあにOT 2名、ST 1名派遣

4 採用試験実施状況

実施日	募集職種	受験者数	採用者数
R元. 7. 1	デイサービスセンター 介護員（正規）	6名	2名
	長安寮 介護員（嘱託）	1名	なし
11. 25	尼崎学園・長安寮 指導員（正規）	2名	1名
	相談支援事業 相談支援専門員（正規）	1名	なし
R2. 1. 21	たじかの園・あこや学園 保育士（正規）	2名	2名
	相談支援事業 相談支援専門員（正規）	6名	2名
	長安寮 看護師（正規）	なし	なし
	サン野菊尼崎 少年指導員（嘱託）	3名	1名
	たじかの園 調理員（嘱託）	9名	1名
1. 27	尼崎学園 指導員（正規）	1名	なし
	長安寮・デイサービスセンター 介護員（正規）	3名	1名
	たじかの園・あこや学園 保育士（嘱託）	1名	なし
	あこや学園 看護師（嘱託）	なし	なし
3. 2	尼崎学園 指導員（正規）	1名	なし

【会議及び研修会】

1 会議等の開催状況

開催回数	内容	場所
年 12 回	管理職会議	身体障害者福祉センター他
年 12 回	運営推進会議	身体障害者福祉センター他
年 8 回	改革改善検討会議	身体障害者福祉センター他
年 11 回	ええあん 9（中堅職員会議） （うち 1 回 施設長講義）	身体障害者福祉センター他
年 3 回	広報委員会	身体障害者福祉センター
年 8 回	センターミーティング	身体障害者福祉センター他
1 回	新型コロナウイルス感染症対策会議	身体障害者福祉センター

2 職員研修会等開催状況

日程	内容（テーマ）	場所
H31. 4. 1	平成 31 年度新規採用職員研修	身体障害者福祉センター
4. 25 26	新規採用職員の指導員研修（尼崎市）	市政情報センター
R 元. 10. 3	福祉施設における感染対策	あこや学園
10. 17	全体研修 「利用者にも働く人にもやさしい職場・組織になる ために ～固定概念をとっばらえ!!～ —実際に尼崎に変化をもたらしている方と事例を通して学ぶ—」	あこや学園
年 5 回	職員交流研修	各施設

3 会議・研修等への参加状況（事務局職員）

日程	内容	場所	参加者
H31. 4. 23	社会福祉法人制度改革事務担当者 フォローアップセミナー	新大阪坂東急 REI ホテル	次長
R 元. 5. 13	兵庫県社会福祉法人経営者協議会 総会	神戸メリケンパークオリ エンタルホテル	理事長
5. 29	指定管理制度に関する説明会	市政情報センター	次長
6. 18	心の健康づくり計画研修	兵庫県医師会館	次長
6. 22	社会福祉法人 檉の木会 創立 50 周年記念式典	都ホテル尼崎	理事長
7. 7	尼崎市身体障害者連盟福祉協会 総会	尼崎市中央北生涯学習 プラザ	理事長

日程	内容	場所	参加者
7. 8	全国社会福祉事業団協議会近畿ブロック定例会議	大阪マリオット都ホテル	常務理事 次長
7. 25	人事評価制度セミナー	肥後橋センタービル	次長 事務員
7. 25	社会福祉法人経営者協議会 7月例会	神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	理事長 事務員
7. 30	セルフケア・ラインケア	姫路商工会議所	次長
8. 6	社会福祉法人監事研修	兵庫県福祉人材センター	常務理事
9. 10	社会福祉法人の経営力強化 ～財務と会計～	ハービス PLAZA	次長
9. 12 他 2 日	社会福祉会計簿記講座（初級）	神戸市教育会館	事務員
9. 21 他 4 日	衛生管理者養成研修会	大阪府社会福祉会館	常務
9. 28	尼崎市障害者・児スポーツ大会	ベイコム総合体育館	理事長
10. 2 他 2 日	社会福祉会計簿記講座（中級）	神戸市教育会館	次長
10. 23	多様な働き方と処遇改善セミナー	尼崎商工会議所会館	事務員
10. 24	兵庫県社会福祉法人経営者協議会 10月例会	兵庫県民会館	理事長
10. 30	全国社会福祉事業団協議会近畿ブロック 第1回ワーキングチーム会議	京都府立総合社会福祉会館	事務員
11. 7 8	全国社会福祉事業団総会	JR ホテルクレメント徳島	理事長
11. 13 14	社会福祉会計簿記講座 （上級・財務管理編）	神戸市教育会館	次長 事務員
11. 15	全国社会福祉事業団協議会近畿ブロック定例会議	ホテルヴィスキオ尼崎	常務・次長
11. 20	障害者雇用促進セミナー	尼崎商工会議所	次長
11. 26	福祉人材確保・定着力向上研修 ～質の高い人材を引きつける採用活動～	兵庫県福祉センター	事務員
12. 2	青年協議会定例研修会 グローバル福祉リーダーの育成	兵庫県福祉センター	事務員
12. 4	働き方改革関連法改正のために	兵庫県医師会	次長
12. 6	兵庫県社会福祉法人経営者協議会 令和元年度 法人経営トップセミナー	ザ マーカスクエア神戸	次長 事務員
12. 10	パワーハラスメント対策 ～パワハラ防止法の成立を受けて～	姫路商工会議所	次長

日程	内容	場所	参加者
12. 13	働き方関連法等読み解きセミナー	エル・おおさか	次長
12. 17	厚生労働省委託事業 「職場のハラスメント(セクハラ・ パワハラ等) 対策セミナー」	TKP 神戸三宮カンファレ ンスセンター	次長
12. 17	社会福祉法人研修会	あましんアルカイック ホール・オクト	理事長
12. 23	社会福祉事業団のための経営 改善・人事管理支援セミナー	TKP 新大阪駅前カンファ レンスセンター	次長 事務員
R2. 1. 9	ハラスメント対策の本質を考える ～加害者心理と事業所の職場風土から～	兵庫県医師会館	次長
1. 12	尼崎市心身障害児者父母連合会 「成人式・還暦祝と新年おめでとう会」	あましんアルカイック ホール・オクト	理事長
1. 24	兵庫県社会福祉法人経営者協議会 セミナー	神戸メリケンパークオリ エンタルホテル	理事長
1. 28	助成金説明会	ポリテクセンター兵庫	事務員
2. 3	パワハラ防止対策等職場環境改善 セミナー	尼崎中小企業センター	次長
2. 3	同一労働・同一賃金セミナー	尼崎中小企業センター	事務員
2. 6	リコージャパン主催セミナー 「名刺を最強の武器にする」他	リコージャパン株式会社 西宮事業所	事務員
2. 19	令和元年度全国社会福祉事業団協 議会近畿ブロック 防災にかかる研修	京都府立総合社会福祉会館	次長
2. 19	全国社会福祉事業団協議会近畿 ブロック 第2回ワーキングチーム会議	京都府立総合社会福祉会館	次長
2. 19	法人ブランディング&広報 PR セミナー	新大阪江坂東急 REI ホテル	事務員
2. 20	障害者雇用納付金制度事務説明会	ポリテクセンター兵庫	事務員
2. 27	特定・障害児相談支援事業者担当者会 「虐待の未然防止へ～積極的擁護の 視点～」	尼崎市中央北生涯学習 プラザ	事務員

【その他】

1 人材確保

- (1) 職員採用試験を随時実施した。
- (2) 採用募集方法は、引き続き事業団ホームページを活用、求人広告媒体も活用して希望者を募った。

2 労務管理

- (1) セクシャルハラスメント・パワーハラスメント等の外部相談窓口の設置（継続）
- (2) 職員健康診断後の産業医の意見聴取（産業保健センターの活用）を要精密検査、要治療の職員へ告知し、職員自身が自己管理できるように配慮のうえ、健康管理に役立てた。（継続）
- (3) 職員の健康、ワークライフバランスの調整及び「働き方改革関連法」へ対応するため、休職、病気休暇に関する規程の整備と勤怠管理簿の見直しを行った。

3 社会貢献、地域貢献

「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」への登録（継続）

4 事務処理の効率化、過誤発生防止体制づくり

- (1) 事務分担を「総務部門」と「企画調整部門」に分け、担当する職務を明確にした。
- (2) パソコンのファイル共有を可能にし、業務の効率化を図った。

5 災害等非常時への備えに関する施設横断的な取組の推進

- (1) 全国社会福祉事業団協議会近畿ブロックにおいて、災害発生時における相互応援協定を締結しており（平成 26 年 7 月 1 日）、防災に係る研修会の実施及び相互協定に係るシミュレーション訓練を実施した。
- (2) 事業団看護職グループによる「感染症対策マニュアル」が完成し、各施設への周知を図った。
- (3) 身体障害者福祉センター、たじかの園において、尼崎市と共同で福祉避難所開設のためのシミュレーション訓練を実施した。

6 コロナウイルス感染拡大防止対策

令和 2 年 1 月より世界的な問題となった新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、各施設の運営方法・対応について、社会情勢と照らし合わせながら、その都度、市と会議の場を設け、対策にあたった。

通所施設については、一部の事業を中止、縮小をしているが、利用者の不安を軽減するため、十分な感染防止対策を行った上で実施及びインターネットを用いた新たな支援の検討（動画配信や Web 会議の導入等）を行っている。

入所施設においては、利用者に対して不要不急の外出を控えることを依頼すると共に、外部からの訪問者の制限、検温や消毒を徹底することで対応している。

また、管理職会議や感染対策会議において、各施設の状況を確認し、必要な備品（マスク・消毒液等）について、施設ごとに譲り合ったり、事務局が一括して購入したりすることで、不足とならないよう調整している。

その他、「密室・密接・密集」の 3 密を避けるため、時差出勤や在宅勤務の導入及び入所施設における負担を軽減するため、他施設からの人的支援の調整といった取組を試行的に実施しているところである。

母子生活支援施設 サン野菊尼崎

【総括】

令和元年度も施設経営の収支面から安定的な運営を図っていくため、入所率の向上を目指した。県内を初め、大阪府内や京都府内の福祉事務所等にパンフレットの送付を行ったこともあり、今までに相談がなかった市からの入所相談や、同じ市からの複数回の相談など、相談件数の増加を図ることができたが、目標としていた平均 16 世帯の入所には届かなかった。令和元年度は、新たに保育士を正規採用したことで、保育人員の制約を理由に断わらざるを得なかった昨年度までの問題は解消できたが、空き状況の問い合わせのみであったり、他施設や他の処遇方法が決まり入所につながらないことが多かったのが実情である。令和2年度以降も引き続き様々な形で関係機関等への周知に努め、入所率の向上につなげていく考えである。

入所世帯の状況としては、入所当時は生活保護を受給する世帯もあるが、その後就労先が決まり経済的には生活が安定していく世帯も多くある。しかしながら、DVによる入所のケースや精神的に不安定な母も多いため、母子それぞれにメンタル面でのフォローを行い、個々の気持ちにより添った丁寧な支援に努めるよう心がけた。また、育児不安を抱える母に対しては、個々のニーズに応じて家事支援や補完保育室におけるシャワー浴支援等を提供するなど、子どもとの適切な関わりができるような支援の工夫を行い、母子関係の安定を図る取組を目指した。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	尼崎市や他市の措置担当課と連絡を取り合いながら連携を強化し、入所平均 16 世帯を目指すことで、入所率を上げて収支の均衡を図る。	令和元年度の入所平均世帯数は 12.5 世帯であり、目標値には届かなかった。 6 月に兵庫県内、大阪府内、京都府内の各福祉事務所等に施設のパンフレットを送付したこともあって、平成 30 年度は 26 件であった入所相談が増加し、令和元年度は 44 件の相談があった。今まで相談がなかった市からの相談が増えたり、以前から相談があった市からの繰り返しの相談も増えたりしたが、結果として、入所につながらなかったものである。 保育に係る職員体制を充実したところでもあり、令和2年度以降も引き続き尼崎市をはじめ、広域他市の措置担当課と日常的に連絡を取り合いながら施設状況の周知に努め、入所率の向上を目指していく。

目標項目	達成状況
2 サン野菊尼崎に来て良かったと思われる施設運営及び入所者支援の充実を図る。	現在、母子それぞれに利用者アンケートを実施しているが、その内容を野菊会にてフィードバックし、出された意見については、検討、改善を重ねながら、よりよい支援の方向性を探っていくよう取り組んだ。行事实施後も毎回アンケートを実施し、母親と子どもが意見を述べやすいようにし、その結果を踏まえて行事企画等の内容の改善に活かせるようにしている。 (令和元年度のアンケートでは「暮らしやすい」、「職員が相談に乗ってくれる」という項目について、無回答を除き、全世帯が「はい」という評価であった。) その他2か月毎に開催している野菊会では、母親たちと共に生活改善や施設設備等について話し合う機会をもち、令和元年度においても母親たちの要望から玄関にベビーカースロープを設置するなどの改善を行った。 入所者支援の充実に向けて、関係機関との情報共有、連絡調整をより密にするよう心がけ、協働して取り組む体制を目指したことで、問題解決の時間的な短縮につなげている。
3 業務の標準化、支援マニュアルの見直しを通して、サービス(支援)の質の向上を目指す。	現状では職員の勤務経験が浅いため、令和元年度の主要な取組として実践を通じた職員の専門性の向上を目的に、放課後等デイサービスや児童発達支援センターにて発達障害児等の直接支援及び尼崎学園にて社会的養護の施設で暮らす児童との関わりを学ぶ研修を行った。また、職員の職務や役割を理解し、支援技術を向上させるために、OJT, OFF-JTを強化充実した。 入所者のしおりについては、情報を入手しやすいように、施設が提供する支援内容についてできる限り明示し、わかりやすいものとするため、内容を一新した。 また、マニュアルの整備や改訂を進め、施設運営の改善や利用者支援につなげた。

【事業の実施内容】

1 利用者等の状況

令和元年度は、入所7世帯、退所が6世帯であった。

(1) 入所世帯の状況（令和2年3月31日現在）

- ・ 元年度末入所者数 13世帯31人（内児童数18人）
- ・ 市内・県内外別 尼崎市内…9 県内市町…3 県外…1
- ・ 就労の状況 常勤…5 パート・アルバイト…3 無職…5
- ・ 母の年齢構成 10代…0 20代…3 30代…7 40代…3
- ・ 子の年齢構成 乳幼児…11 小学生…6 中学生…0 高校生…1

(2) 退所世帯の状況（年度内の総数：主な退所理由）

- ・ 県・市住入居 … 3
- ・ 一般住宅入居 … 2
- ・ 施設設備の不満 … 1

(3) 補完保育室（年度内）

- ・ 利用日総数 … 239日
- ・ 利用児童延べ人数 … 585人（一時預かり … 107人）
- ・ 入所児数（年度内退所含む）… 4人

2 日常生活への支援

(1) 家族一体の支援

ア アセスメントの方法を整備し、母子それぞれとの面談を通じて、個々の課題を具体的に明示した自立支援計画を作成した。また、半年ごとにモニタリングを行い、支援の有効性や効率性を検討した。作成した自立支援計画については、措置担当課と共有し、他機関等との連携に努めた。

イ 生活能力や養育能力に課題のある利用者に対して、家事や育児、会計管理の助言等を行い、その必要に応じて行政相談窓口や医療機関を紹介し、複雑な場合は手続き等の説明や窓口に同行するなどの支援を行った。

ウ 離婚、親権、債務過重等の課題を抱える利用者に対して、必要に応じて手続きの同行、相談を行った。

エ 退所後の住居に関して、公営住宅への申込援助、良好な環境の民間アパートの情報提供を行った。

(2) 母への支援

ア 安心して仕事や就労活動が続けられるように、補完保育を行うと共に、母の体調や状況に合わせ保育園等への送迎代行、通院や各種手続き時等には子の一時預かり等の育児支援を行った。また、育児不安の高い母については、レスパイト目的での一時預かり保育を提供したり、家庭へ訪問しての食事介助等、個別の子育てのニーズに対応すると共に、子どもとの適切な関わりができるように支援した。

イ 入所後間もない中で就職先を探している母や、転職を考えている母に求人情報の収集や提供を行うとともに、就労の継続が不安定な母に対しては、断続的に面談を行い、就労意欲を維持できるように支援した。加えて、知的・精神面で支援の必要な母には障害者就労・生活支援センターにつなぎ、就労のサポートを行った。

ウ 日常的な声掛け等により精神面をサポートするとともに、精神疾患を抱えている母に対しては、医療機関につなぐ等、心身の安定を目指した支援を行った。

(3) 子どもへの支援

ア 学童保育へ通う児童が多いものの、帰宅後に学校での宿題を中心に職員による学習支援を行った。また、学習ボランティア（学生）を依頼し、個別の学習支援の機会を設定した。

イ 入進学お祝い会、季節ごとの行事等を通して、子ども同士の関わりを重ねたり、大人との良好な関係を築いたりし、健やかな育ちを支援した。また、学校の長期休暇時に、県協議会加盟施設の児童対象合同行事への参加や施設内外で児童だけを対象にした外出体験を行った。

ウ 母子関係に留意し、子どもそれぞれの個性を尊重しつつ社会性が身に付くよう生活支援等を行った。また、母の養育能力に起因する問題では、学校や保育所、放課後等デイサービスとの連携及び専門家に助言を求める等、児童の自立支援強化に努めた。

3 安全・安心の確保

- (1) 日常的に管轄警察署や教育機関等と連携強化を図るとともに、夜間時に機械警備の業務委託を締結している。
- (2) 防犯カメラ、人感センサーを設置している。
- (3) 児童福祉施設最低基準に基づき、施設内での火災等を想定した避難訓練を毎月実施したほか、大規模災害発生や不審者侵入を想定した訓練を行った。
- (4) 生活習慣病・感染症・食中毒・風邪の予防等の健康・衛生面や、誤飲事故をはじめとする居室内で起こりうる事故の防止等については、野菊会での説明や注意喚起、「SUNのぎくだより」・「保健だより」の発行、都度の掲示板での情報提供を行った。
- (5) 快適な養育環境を保持するため、入所者の居室について、定期的に職員による居室点検を行い、点検シートをもとに、著しく不適正な環境にある居室には個別的な介入を行った。

4 施設内外の行事参加の働きかけ

安心・安定した生活の中、母子の絆を深め健全な子育てができるよう、また、団体生活が円滑に行えるよう、年間を通して季節行事（子どもの日のお祝い会、クリスマス会、ひな祭り会）や、日帰り旅行（京都鉄道博物館）を実施した。

日程	内容	対象
R 元. 4. 3	人形劇鑑賞（人形劇団びび）	入所者全員
4. 3	春の児童行事（西浦公園）	小学生
4. 17	入学・進級おめでとう会	入所者全員
4. 27	春の子ども会（開学、神戸女学院生徒主催）	小学生
6. 9	県母協潮干狩り（的形）	入所者全員
7. 27	夏まつり会	入所者、退所者
8. 6	県母協合同ピクニック（六甲ボウル）	小学生
8. 19	夏休み児童行事（王子動物園）	小学生
10. 5	衣料品お譲り会（SUN マーケット）	入所者全員

日程	内容	対象
10. 31	ハロウィン行事	入所者全員
11. 10	県母協同レクリエーション(おもちゃ王国)	入所者全員
12. 1	日帰り旅行(京都鉄道博物館)	入所者全員
12. 20	クリスマス会	入所者全員
R2. 2. 3	節分	入所者全員
2. 29	ひな祭り会(人形劇団びび)	入所者全員

5 補完保育

補完保育室を設けて保育士を配置し、母の子育てのニーズに対応すると共に、子どもとの適切な関わりができるように支援した。また、保育園が休みだが仕事がある時や、母の体調不良時は一時預かりを行い生活の維持に寄与した。家庭での養育に不安がある場合においても、保育園からの帰園後に、保育室で一時的に預かると共に、入浴支援を行う等、養育の援助を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	19	20	21	21	19	21	20	20	19	18	21	239 日
初日在籍 児童数	2	2	2	2	2	1	4	4	3	3	3	4	4 人
新規児童数	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	
終了児童数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	5 人
延べ利用児数	37	34	37	37	36	22	80	59	59	52	56	76	585 人
延べ一時預かり 利用児数	0	10	7	2	16	10	4	4	2	13	13	26	107 人

【職員研修及び会議等】

(研修)

日程	内容	場所	参加者
R 元. 4. 22 5. 30	DV 相談基礎研修	兵庫県のじぎく会館、 ひょうご共済会館	主任
4. 25	新規採用職員指導員研修	市政情報センター	指導員
5. 9	児童福祉新任職員研修	兵庫県福祉人材研修セン ター	指導員 2 人
5. 13 25	児童発達支援見学実習	放課後等デイサービス ゆめみたす	指導員 2 人
6. 5 他 3 日	療育研修実習	あこや学園	指導員 4 人
6. 7	施設内研修(虐待について)	サン野菊尼崎	全職員
6. 13	定例研究会	甲南大学	施設長、主任
7. 2	子ども虐待について	研修室	指導員 2 人

日程	内容	場所	参加者
7. 3	施設内研修(気になる子の支援を考える)	サン野菊尼崎	全職員
7. 4 5	近母協研究大会	ホテルアバローム紀の国	施設長、主任
7. 7	県母協職員合同研修	兵庫県福祉センター	施設長他
7. 9	施設内研修(虐待について)	サン野菊尼崎	全職員
7.12 他 3 日	市町子ども家庭支援担当職員等特別研修	中央子ども家庭センター	主任
7.24	子どものトラウマインフォームドケア	こころのケアセンター	指導員
8. 2 他 2 日	児童養護施設研修	尼崎学園	指導員 4 人
8.23	たじかの園講座「気になる子どもの支援について」	たじかの園	指導員
8.27	たじかの園講座「子どもの成功を支援する工夫」	たじかの園	指導員
9.10	事業団交流研修	たじかの園	指導員
9.12 他 2 日	社会福祉会計簿記講座	神戸市教育会館	施設長
9.18	DV 被害者のこころのケア	こころのケアセンター	指導員
10.24	救命講習	尼崎北消防署	指導員 2 人
12. 6	人権学習会	園和北小	指導員 2 人
12. 9	県母協定例研究会	神戸松蔭女子学院大学	指導員 2 人
12.12	DV 相談応用研修	兵庫県中央労働センター	指導員
12.21 22	ジャスピカン	神戸国際会議場他	施設長、主任
R2. 1. 9 他 2 日	近母協職員研修	大阪社会福祉指導センター	主任
1.15	児童虐待対応研修	たじかの園	指導員 2 人
1.24 他 3 日	基幹的職員研修	兵庫県私学会館、兵庫県福祉センター	主任
1.30	発達障害とトラウマ	こころのケアセンター	指導員
1.31	児童福祉施設職員スキルアップ研修会	兵庫県福祉センター	指導員
2.19	子どもの育ちを支えるために	聖和短期大学	指導員
2.24	県母協職員合同研修	兵庫県福祉センター	施設長他

(会議)

頻度	内容	場所	対象
年間 7 回	県母協定例施設長会議、理事会	県福祉センター	施設長
年間 4 回	母子支援員職員部会	県福祉センター他	母子支援員
年間 3 回	少年指導員職員部会	県福祉センター他	少年指導員
1 回	入所者ケース検討会	サン野菊尼崎	関係機関職員、 施設長他
年間 2 回	入所者モニタリング	小学校	主任

【その他】

1 非常災害訓練

- (1) 消防署との合同消防訓練 令和元年 6 月 19 日 49 人参加
- (2) 自衛消防訓練 年 12 回 のべ 272 人参加
- (3) 不審者対応訓練 令和 2 年 2 月 5 日

※ 警察との合同訓練を 3 月に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染防止対策のため実施できず。

- (4) 防災伝達訓練（県母協加盟施設） 令和 2 年 1 月 15 日

【資料編】

1 在籍者状況

(1) 月別在籍人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
初日在籍 世帯数	12	11	12	12	14	12	13	12	12	13	13	14	
初日在籍 人数	26	24	27	27	34	28	30	26	26	30	30	33	
入所世帯数	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0	2	0	7
入所人数	0	3	0	7	0	2	0	0	4	0	5	0	21
退所世帯数	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	1	6
退所人数	2	0	0	0	6	0	4	0	0	0	2	2	16

(2) 退所理由

理由別	世帯数
県・市住入居	3
一般住宅入居	2
施設設備の不満	1
計	6

(3) 主たる入所理由

理由別	世帯数
住宅事情	3
経済的	1
夫などからの暴力	3
計	7

(4) 在籍期間

期 間 区 分	1年未満	1～2年 未満	2～3年 未満	3～4年 未満	4～5年 未満	5年以上	合計	平均期間
R2.3.31 現在 世帯数	6	2	4	1	0	0	13	1年4ヶ月
R元年度 退所世帯数	2	2	1	0	1	0	6	1年11ヶ月

(5) 母の年齢

年 齢 区 分	10代	20代	30代	40代	50代	合計 (人)	平均年齢 (歳)
元年度入所	0	3	3	1	0	7	31.5
元年度退所	0	3	0	3	0	6	35.7
R2.3.31 現在 世帯数	0	3	7	3	0	13	33.9

2 入所相談件数の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
市内	2	1	0	3	1	1	0	1	0	1	1	0	11
市外(県内)	1	0	1	1	4	1	1	1	0	2	1	2	15
市外(県外)	1	0	2	0	1	2	1	4	3	2	0	2	18
合計(件)	4	1	3	4	6	4	2	6	3	5	2	4	44

尼崎市立身体障害者福祉センター

【総括】

身体障害者福祉センターは、社会参加促進施設として、地域と当事者をつなぐ役割を強く意識しながら、新しい利用者の確保と既存の利用者の満足度向上を目指した。令和元年度は職員が利用者とともに地域との結びつきを強められるよう、市の関連イベントとの連携を重視した事業展開を行った。イベントの企画段階から参加できたことで、身障センターを普段利用されない方はどのような活動をしているのか、関心のある事象を知ることができ、職員の見識を広めるよい機会となった。また、作品展実行委員の募集やボランティア養成事業「やっちゃん部」を立ち上げたことにより、利用者自身の力が発揮できる場として、職員の想像以上の可能性を感じさせるものとなった。

利用者が事業に対する理解を深め、意見を出し合える機会として、新年度事業の申込前に詳細な事業内容の説明会を実施した。リハビリ事業においても、療法士自身がサービスの目的や内容、利用方法などを説明する場を設けた。これまで毎年度末に実施していた利用者アンケートを上半期終了後に設定することにより、利用者意見の反映を速やかに行うことを目指した。

リハビリ事業においては、利用者の利便性と多様な対応のため、指定自立訓練（機能訓練）の開所日を4日から5日に増やし、社会的リハビリを強く意識したグループ訓練の試行をする等の取組を進めており、令和2年度以降も利用者の自立を意識した生活課題を達成することと効率的な運用が両立できるよう工夫を続けている。

なお、令和元年度の事業実施件数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年2月末以降はリハビリ事業以外の全ての事業が中止になったことを受けて、前年度事業実施件数に対し約92%（平成30年度年間事業実施件数4,853件）、利用延べ人数に対し、約82%（平成30年度年間利用延べ人数23,827件）となった。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	新しい利用者の確保とともに、地域住民へ身障センターを周知する機会を多く持つ。	毎月開催のオープンカレッジ（市民公開講座）に地域住民が多く参加したほか、障害者週間に開催の「令和元年度作品展」では、過去の実績に比べ、2倍以上の集客ができた（平成30年度実績81人に対し、令和元年度実績は174人となった）。 また、「ミーツ・ザ・福祉」「みんなの尼崎大学まちじゅう学祭」等には、企画段階から参画したことで、身障センターを利用されていない方への広報と交流の機会となった。

目標項目		達成状況
2	障害者理解及び支援の啓発のため、ボランティア養成事業等を拡大する。	ボランティア養成事業「やっちゃん部」を立ち上げ、学生、一般市民、障害のある方がコミュニケーション支援の方法や障害者スポーツの経験を通じ、社会参加の意義を考え、交流した（令和2年度以降も継続していく）。 また、令和元年度は、（仮称）身障センター運営会議の設置に向けた準備を進めることとしていたが、センター事業の目的や地域に果たす役割を従前からの利用者に十分に情報提供することができていなかったため、この点を踏まえて再検討することとした。今後、当事者を含めた地域住民に障害者及び身障センターの役割の理解を更に啓発すると同時に、職員自身がより地域に対する意識を深めながら、時期を見てその方法を改めて検討整理することとする。

【事業の実施内容】

1 自主事業・自立訓練（機能訓練）

(1) 文化教養講座の開催

趣味の拡大と教養の向上に加え、社会参加と交流の場の提供を目的に各種講座を開催した。生活に彩りをもたらし、外出や人との関わりを持つきっかけにされている利用者も多い。昨年と同数の18講座を外部講師により実施した。趣味拡大だけでなく、生活に生かせる情報発信にも心がけ、体験講座として企画した「災害時の料理」（3月中止）など役立つ内容も織り交ぜた。

音楽講座の成果を、「ミーツ・ザ・福祉」（11月）の野外ステージで発表した。初めての試みに利用者の戸惑いもあったが、講座を通じて地域に出ていくきっかけとなり、よい経験だったとの感想を得た。

また、平成30年度に書道作品の全国コンクールにて入賞者があったことを励みに、引き続き応募する（今回は選外）。絵画講座からは令和元年度障害者スポーツ絵画コンクール（兵庫県障害者スポーツ協会）に応募した。2名の入選者があり、日頃の研鑽の成果を外部に広く発信することができた。

受講者への個別の配慮として、手話通訳や要約筆記のボランティアに情報保障のお手伝いを引き続き依頼した。

講座名	開催回数	延べ人数
アロマセラピー	7	60
生花	11	145
囲碁	10	80
絵手紙	10	70
園芸	4	32
音楽	14	412
絵画	10	65
カラーセラピー	7	41
組紐	10	60
健康クッキング	8	108
書道	9	115
パステルアート	4	48
ミュージックセラピー	11	340
ヨガ	19	265
笑いヨガ	9	101
視覚障害者パソコン	5	33
肢体障害者パソコン	6	49
打楽器を楽しもう	3	91
計	157	2,115

(2) スポーツ教室の開催

楽しみながら体力の向上、維持を図り、さらに仲間づくりの輪を広げることを目的に、卓球、フライングディスク等の定例のスポーツ教室を行った。

体験教室では、「デフテニス」（聴覚障害者対象、外部講師）、「ソーシャルフットボール」（精神障害者対象・外部講師、3月中止）、「ブラインドリズムダンス」（視覚障害者対象）、「ユニバーサルテニス」（知的障害者対象）などを企画した。そのほか、「少林寺拳法」、「空手」等、武道の体験教室では、簡単な手話や学生ボランティアによるノートテイクを補助に、聴覚障害の方も一緒に楽しく体を動かすことができ、大いに盛り上がった。

2020 東京パラリンピックを意識し、正式種目である「ボッチャ」を「ミーツ・ザ・福祉」、「みんなの尼崎大学まちじゅう学祭」などのイベントとコラボした。

今まで身障センターを利用したことのなかった若い世代の参加も見られ、広報の効果が感じられた。本格的にボッチャ競技に取り組まれている選手にデモンストレーションの協力を得たことで、競技の魅力やボランティアや関係者との人材交流もできた。

卓球バレーは、以前から「スポレク」教室で実施していたが、単独の教室として、大会出場を目指して練習を重ねた。（3月県大会中止）県内での卓球バレー指導者養成講習会を兼ねて、阪神地区障害者スポーツ指導者協議会のバックアップにより、第1回身障センター杯卓球バレー大会が実現した。

講座名	開催回数	延べ人数
卓球	26	210
スポレク	31	427
サウンドテーブルテニス	8	108
フライングディスク	10	155
グラウンドゴルフ	9	145
レクウォーキング	11	119
軽スポーツ	28	684
スポーツ体験教室（土曜）	8	137
囲碁ボール	3	56
卓球バレー	5	78
チェアピクス	2	38
ユニバーサルテニス	2	29
平日体験教室	1	12
のじぎく大会強化練習	6	61
計	150	2,259

(3) 生活訓練事業

センター利用者以外の一般市民も受講できるオープンカレッジの一環として保健衛生講座「フレイルと認知症」、同「よく使われる漢方TOP10」として実施した。

平成 30 年度 3 回シリーズで開催した「聞こえない聞こえにくい方のための手話講座」（中途失聴者対象手話講座）は、回数を 5 回に増やし、より丁寧に繰り返し学習し、交流がしやすい講座運営を努めた。

スマホ講座（KDDI スマホ・ケータイ安全教室の活用）では災害時の連絡方法など生活に必要な内容を学んだ。平成 29 年度から 3 年連続で開催した電動車いす講習会を、オープンカレッジに取り入れ、障害当事者以外の参加者を多く得、尼崎北警察署や電動車椅子普及協会、市生活安全課等の関係機関に協力を仰いだ。

体力測定会は、市健康増進課に協力依頼し、骨密度測定を導入、利用者に多角的な測定結果を提供し、参加者も約 3 倍に増加した。

事業名	開催回数	延べ人数
保健衛生・再発予防講座	2	56
中途失聴者対象手話教室	5	35
スマホ講座	1	14
電動車いす講習会	1	30
体力測定会	1	26

(4) レクリエーション開催事業

知的障害者を対象とした社会参加活動「エンジョイクラブ」では、例年音楽療法、創作活動、体を動かす活動、外出企画を継続してきた。令和元年度は安全面への配慮から運動会の企画を「笑いヨガ」に変更し、「こけ玉づくり」や音楽療法とともに実施した（3月の外出企画は中止）。

各種スポーツ大会のうち、グラウンドゴルフ大会は例年9月に実施していたが近年の気象状況をかんがみて、開催を6月に変更し、無事実施できた。

毎年、兵庫障害者フライングディスク協会と尼崎市スポーツ振興事業団の協力の下、開催している大会名称を「令和元年度兵庫県障がい者フライングディスク大会 in あまがさき」と改め、学生ボランティアの協力も得て盛大に開催することができた。

昭和60年の設立以来開催してきた「身障センターのつどい」内で実施されていた作品展のあり方を大きく見直した。できた作品を職員が展示するのではなく、企画段階から実行委員を募り、利用者が企画、チラシ作成、装飾、当日案内などを担当した。利用者参加型の「共に作りあげる」形に変更した結果、利用者からは、「主体的に動くことの楽しさ、重要性への気づきを体験できてよかった」との感想を得た。平日に開催したことで、館内関係機関からの来場も多く、障害者週間の取組にふさわしい催しとなった。

リフトバスツアーは、開催数を倍増させ、「バリアフリー2019」（福祉機器展）や、オープンカレッジとのコラボ企画による「人と防災未来センター」への外出など学習型の企画を取り入れた。

音楽機器を利用した「音楽元気体操リズムでポン！」は利用者にも認知され、担当職員が既存のプログラムに加え、アイデアを出し合い、内容を充実させた。その他、「歌（うた）リンピック」（カラオケ大会）は、審査員や観覧者を募集し、参加者も衣装や演出に凝るなど、回を重ねるごとに白熱し、利用者の歌への情熱を表現するイベントとなった。

事業名	開催回数	延べ人数
エンジョイクラブ（知的障害者対象）	3	150
各種スポーツ大会	3	144
作品展	3	174
リフトバスツアー	8	159
音楽元気体操（リズムでポン！）	9	156
たいこ相撲	2	32
脳トレ	1	12
その他	7	184

(5) 機能訓練の実施

指定自立訓練（機能訓練）の終了者やその対象とならない18歳から64歳までの身体障害者で、嘱託医によるドクターチェックによりリハビリ可と判断された方を対象に、個別またはグループの機能訓練を行った。

外部講師の言語聴覚士が実施するグループ S T は、グループ分けを行い、言語療法の前後に、職員の理学療法士や作業療法士によるグループ訓練を設定したことで、多角的なアプローチが行えるようになった。

内容	開催回数	延べ人数
センター訓練（個別）	259	501
グループ訓練	28	126
グループ S T	18	102

(6) 各種相談の実施

利用者やその家族からの相談に、各専門職が対応した。栄養指導は在宅栄養士会に依頼し、保健師とともに主として利用者宅で、障害や住宅環境に制限がある中でできる調理法や、体調に則した個別指導を行った。

高齢化や体調変化に伴い、嘱託医による定期的な医療相談の機会を設け、その相談間隔を短くし、体調や不安に細やかに対応できるように見直した。

「体の相談会」として、センター利用者だけでなく、在宅の障害者とその家族等を対象に、福祉用具や装具などの相談機会を設けたが、利用者は少なかった。今後開催時間や広報のあり方を再検討する。

内容	開催回数	延べ人数
栄養指導（集団及び個別）	3	4
医療相談	11	66
保健相談	97	172
自立訓練（機能訓練）	323	390
機能訓練	13	24
体の相談会	1	1
子宮ガン検診（同行）	2	16
その他（スポーツ等）	12	16
計	462	689

(7) 指定自立訓練（機能訓練）

障害者総合支援法に示される標準期間（18 か月）の機能訓練が必要とされる 18 歳から 64 歳までの身体障害者を対象とした。

令和元年 12 月に開所日数を 1 日増やし、火曜から土曜までの週 5 日開所とし、利用者に便宜を図った。また、自宅、職場や作業所にも療法士が出向き、より生活に沿ったりハビリを心がけた。さらに、自立訓練（機能訓練）終了後に生活の質が低下しないよう、指定特定相談事業所と連携し、切れ目のないリハビリや、生活の充実をサポートできるよう、本人や家族との面談の機会を充実させた。

内 容	開催回数	延べ人数
自立訓練（機能訓練）	404	450

2 (仮称) 身障センター運営協議会の設置に向けた取組

身障センターが障害者の社会参加活動の拠点施設として、地域に果たす役割や今後の事業展開に利用者の意見を反映させるために、利用者と職員がともに考える場として、新たな会議体の設置準備を検討する予定であった。やっちゃん部の活動や利用者自身が主体となって運営を進めた作品展を通じ、意見表出の機会を増やすことで公平中立な視点の人材を育てることを第一段階に、今後も準備を進めていく。また、職員自身が地域課題や権利擁護に関する知識を身につけ、利用者の意見を引き出せる資質の向上も不可欠と考える。

3 職員の地域派遣事業の検討

令和元年度は「ミーツ・ザ・福祉」や「みんなの尼崎大学まちじゅう学祭」などのイベント、やっちゃん部の広報活動での学校訪問などを通じ、身障センターの専門職種が地域に出るきっかけをつかんだ。令和2年度に行う囲碁ボール教室を社会福祉協議会大庄支部の担当者と地域の高齢者と身障センター利用者が一緒に行うことを協議した。

4 その他の事業

(1) 貸室事業

平日の夜間、日曜祝日を中心に障害者団体、サークル等へ会議やレクリエーション・スポーツ活動の場として貸室を行った。開催予定の説明会は中止となったが、活動参加者名簿の提出依頼やきまりの配布を行い、各室にきまりの設置やわかりやすい表示を行い、お互いに気持ちのよい利用方法と呼びかけた。

場所	回数	延べ人数
体育室	360	4,415
研修室	213	1,972
日常生活室	117	755
社会適応室	39	273

(2) 車いす利用者用リフト付きバスの貸切運行

センター各事業の利用者の送迎運行、日常の送迎業務に支障のない範囲で、障害者団体へのバスの貸切運行を行った。貸切運行に関しては、貸切運行事業利用説明会を4月に開催した。

内容	運行回数	延べ人数
平常運行	578	1,380
事業運行	26	337
貸切運行	11	175

(3) 職員の派遣協力

ア ニ崎市介護認定審査会（理学療法士）

イ リハビリ関係派遣

理学療法士が尼崎市PTOTST連絡会の地域ケア会議等各種会議や学生を巻き込んだ地域住民ワークショップ、阪神南圏域リハビリテーション協議会の会議やフォーラムに参加した。このような機会を通じて、地域に対して身障センターの事業や役割の周知に努め、専門職としての提言を行った。

ウ 全国障害者スポーツ大会及び兵庫県のじぎくスポーツ大会等

「全国障害者スポーツ大会 2019 いきいき茨城ゆめ大会」は、台風 19 号接近のため中止となった。また、県及び市主催の障害者スポーツ大会や競技会運営のため、体育指導員を審判および役員として派遣した。市障害者スポーツ大会には救護として保健師が協力した。

エ 法人内連携

毎月第1・3木曜日の午後、デイサービスセンターのプール指導に赴いた。

内容	回数	延べ人数
尼崎市介護認定審査会	10	485
リハビリ関係派遣	10	42
県・市等スポーツ関係派遣	12	18
デイサービスプール派遣	7	7
その他	2	4

(4) その他

ア オープンカレッジ（旧：市民公開講座）

地域啓発と地域貢献を意識した事業として、誰でも参加できる市民公開講座の愛称を「オープンカレッジ」として毎月実施（3月中止）。「みんなの尼崎大学まちじゅう学祭」企画とのコラボ企画や、尼崎市のヘルスアップ戦略事業の「尼崎市未来いまカラダポイント事業」に協賛するなど広報の工夫を行った。

イ やっちゃん部（ボランティア養成講座）

身障センターのサポーターを増やすために、ボランティア人材を育成する事業を5月に立ち上げた。手話や点訳などコミュニケーション支援ツールの勉強会や障害者スポーツの体験会を通じ、障害のある方との交流を深めた。また、「できる人ができることを」をモットーに、障害のある方自身のできることを考える機会にできたことは予想を超えた成果であった。

ウ 視覚障害者意見書作成

視覚障害者の通院介助サービスの支給に必要な所見を身体障害者福祉センターの所長として、対象者の自宅を訪問し、現病の状況や生活の聞き取りを行い、意見書を作成した。

エ 施設見学

関係機関や事業利用を希望する方の申し出に対し、気軽に事業を見学できるよう調整した。

オ 実習生等の受け入れ

地域における福祉事業を知る機会として、在宅看護論の一環として、見学実習に係る看護学生 40 名を継続して受け入れた。

カ ボランティアの活用、育成

平成 30 年度に引き続き、近隣大学や養成校への学生ボランティア依頼を継続し、障害者理解を啓発し、イベント等での利用者との世代間交流を進めた。また身障センターで活躍しているボランティアグループとの意見交換の機会を設けた。

キ 各種説明会

年度当初に令和元年度実施する事業の説明会を利用者向けに開催したほか、リハビリ利用者向けの説明会を 1 月に行った。また、令和 2 年度の申込開始前の 1 月に、年間の事業予定や講座や教室などの説明を行い、既存の利用者にも幅広く利用してもらえる工夫を行った。

内容	回数	延べ人数
オープンカレッジ	9	222
やっちゃん部	4	70
視覚障害者意見書作成	16	35
施設見学	23	53
福祉実習など	28	139
ボランティア	224	338
事業所訪問	62	86
各種説明会	5	43
その他	10	103

5 月別利用数

(1) 月別事業実施件数 年間 4,482 件

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
348	376	399	415	352	387	388	397	392	334	399	295

(2) 月別利用延べ人数 年間 19,558 人

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
1,517	1,649	1,974	1,908	1,468	1,759
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1,737	2,100	1,614	1,474	1,750	608

【職員研修及び会議等】

- 職員会議を毎月第 2・4 木曜の始業後に設定し、職員全員での今後の事業運営の検討や情報共有を図った。なお、新年度に向けては別途「2020 会議」として毎月 1 回程度開催した。
- 外部講師を招いて接遇に関する研修を実施したほか、新規採用職員に対する研修を 1 か月に渡り行った。

(研修)

日程	内容	場所	参加者
H31. 4. 13	第 4 回兵庫県障害者フライングディスク指導者「はばたん審判員」養成講習会	兵庫県立スポーツ交流館	理学療法士
4. 19	平成 31 年度新入社員研修会	ベイコム体育館	理学療法士 指導員
4. 27	トヨパラスポーツ体験イベント	エディオンアリーナ 大阪	体育指導員
R 元. 5. 7	第 13 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会事前説明会	兵庫県福祉センター	体育指導員
5. 21	令和元年度障害福祉施設新任職員研修	兵庫県福祉人材研修センター	指導員
6. 14	施設見学研修	ファインプラザ大阪	理学療法士、 作業療法士
6. 20	令和元年度障害福祉施設新任職員研修	兵庫県福祉人材研修センター	理学療法士
6. 27 7. 31	要約筆記講座	尼崎市社協会館 他	所長・保健師 指導員
6. 28	2019 年度障害者虐待対応力向上研修 (A 研修)	兵庫県福祉センター	所長
7. 24	施設見学(リハビリセンター)	西宮市総合福祉センター	理学療法士
7. 26	フレイル予防市民講演会	尼崎市立中央北生涯学習プラザ	チーフ
7. 31	施設見学	社会福祉法人太陽の家京都	理学療法士 作業療法士
8. 1	2019 福祉専門職対象防災対応力向上研修	加古川市民会館	所長
8. 3 他 3 日	全国障害者スポーツ大会 S T T ・卓球練習会	県立障害者スポーツ交流館	体育指導員
8. 17 他 3 日	2019 年度大阪府中級障がい者スポーツ指導員養成講習会	ファインプラザ大阪	体育指導員
8. 20	令和元年度安全運転管理者等講習会	尼崎市中小企業センター	所長
8. 22	施設見学研修 (生活リハビリテーションセンター)	堺市立健康福祉プラザ	理学療法士
9. 27 28	令和元年度障害者福祉センター管理運営研修会	三重県身体障害者総合福祉センター	所長

日程	内容	場所	参加者
10. 1	第 1 回校見学会 (身体障害者対象科)	兵庫障害者職業能力 開発校	理学療法士
10. 5	第 13 回尼崎市民医療フォーラム	アルカニック・オクト	理学療法士
10. 5	未生流中山文甫会阪神支部花展	豊中市立文化芸術 センター	所長
10. 7	動きに反応する映像装置オミビ スタの紹介、体験会	アビリティーーズ・ ケアネット(株) 神戸ショールーム	理学療法士
10. 10 11	安全衛生推進者養成講習	尼崎労働基準協会	所長
10. 16	施設見学研修・説明会	神戸視力障害者セン ター	所長 理学療法士
10. 20	卓球バレー体験会指導者養成 講習会	宝塚市立スポーツ センター	体育指導員
10. 21	ふれあいサロン見学研修	大庄南生涯学習プラザ	チーフ
10. 29	盲ろう者理解セミナー	中央北生涯学習プラザ	指導員
11. 7	全事協近畿ブロック 「意識改革を促進する研修会」	クロスパル高槻	指導員
11. 14	2019 年度障害者虐待対応力向上 研修 C 研修	兵庫県福祉センター	所長
11. 16	地域交流イベント見学研修	西宮すなご医療福祉 センターつばさ	理学療法士
11. 16	高次脳機能障がい講演会 (当事者と家族からのヒント)	宝塚ソリオホール	チーフ
11. 23	あまよう祭見学研修	尼崎市立あまよう特 別支援学校	チーフ
11. 23	災害ボランティアセンター運営 訓練	尼崎市社協会館	チーフ
11. 26	あまのくらし部会フォーラム	尼崎市立中央北生涯 学習プラザ	所長・指導員 理学療法士 体育指導員
11. 27	悩みの聞き方レッスン	尼崎市立すこやか プラザ	チーフ 理学療法士
11. 28 29	身体障害者リハビリテーション 研究集会 2019	レクザムホール (香川県県民ホール)	チーフ
12. 1	ボッチャ審判員養成講習会	兵庫県立総合リハビリ テーションセンター	理学療法士
12. 13	じんけんスタディツアー 「パラリンピックの魅力」	尼崎市立中央北生涯 学習プラザ	体育指導員

日程	内容	場所	参加者
12. 14 15	脳性まひ等肢体不自由児者に 係る療法士等研修事業研修	シマブンビル B B プラザ	理学療法士
12. 21	ボッチャ審判員養成講習会	明石市立総合福祉 センター	体育指導員
R2. 1. 10	令和元年度全事協近畿ブロック 「専門性を向上させる研修」	グランフロント大阪 北館タワー	理学療法士
1. 12	第 4 回神戸国際大学地震津波に 向けた災害セミナー 「災害時の医療支援について」	神戸国際大学ミカエ ルホール	理学療法士
1. 16	令和元年度あまよう特別支援学 校内防災研修会	尼崎市立あまよう 特別支援学校	所長 理学療法士
2. 7	第 54 回 N I K K O フェアコクヨ の防災ミニセミナー	尼崎商工会議所	事務員
2. 9	第 7 回阪神南圏域多職種連携 フォーラム	尼崎市女性センター トレピエ	理学療法士
2. 15	第 21 回兵庫県総合リハビリテー ションケア研究大会	兵庫県民会館	理学療法士
2. 17	令和元年度全事協近畿ブロック 防災にかかる研修	京都府立総合福祉 会館	保健師
2. 19	情報モラル教育 「正しいインターネットの使い方」	尼崎市立大島小学校	チーフ

(会議)

日程	内容	場所	参加者
H31. 4. 12	NPO 法人尼視協第 4 回社員総会	尼崎市立身体障害者 福祉会館	所長
4. 24	気づき支援型地域ケア個別会議	武庫西生涯学習プラザ	理学療法士
R元. 5. 15	ミーツ・ザ・福祉ワークショップ 午後の部、夜の部	小田北生涯学習プラザ	チーフ 保健師
5. 24	尼崎市手をつなぐ育成会決算 総会	尼崎市立中央北生涯 学習プラザ	所長
5. 28	令和元年度尼崎市自立支援協議 会活動報告会	尼崎市中央北生涯 学習プラザ	所長
6. 12	みんなの尼崎大学学生相談室 (ミーツ・ザ・福祉、まちじゅう学祭)	あまがさきひと咲き プラザ	チーフ 保健師
6. 20	尼崎市心身障害児(者)父母連合会 第 54 回定期総会	尼崎市立中央北生涯 学習プラザ	所長
6. 21	兵庫県障害者フライングディス ク大会 in あまがさき打合せ	西宮市総合福祉 センター	所長・チーフ 体育指導員

日程	内容	場所	参加者
7. 7	NPO 法人尼崎市身体障害者連盟 福祉協会第 13 回定期総会	尼崎市立中央北生涯 学習プラザ	所長
7.10	みんなの尼崎大学 「学びの連携推進会議」 「学生相談室・ランチミーティング」	あまがさきひと咲き プラザ	所長 チーフ 作業療法士
7.12	いきいき学級事業について 打ち合わせ	尼崎市立中央北生涯 学習プラザ	所長 チーフ
7.17	第 1 回立花地区生涯学習事業の 連携に関する会議	立花庁舎	所長
8. 8	第 1 回立花地域振興連携推進 会議	立花庁舎	所長
8.28	気づき支援型地域ケア個別会議	武庫支所	理学療法士
8.31	尼崎市総合防災訓練図上訓練	尼崎市立身体障害者 福祉センター	所長
9.13	令和元年度尼崎市障害児・者 スポーツ大会事前説明会	尼崎市役所	体育指導員 保健師
11.29	令和元年度生涯学習フェア	尼崎市立立花南生涯 学習プラザ	所長
12.14	ボランティアグループうさぎの ペン 25 周年お祝い会	尼崎市社協会館	所長
12.22	令和元年度第 5 回ひょうご障害 者スポーツ指導者協議会理事会	三木市立三木コミュニ ティスポーツセンター	体育指導員
12.25	気づき支援型地域ケア個別会議	武庫支所	理学療法士
R2. 2. 3	第 14 回兵庫県障害者のじぎく スポーツ大会申込説明会	兵庫県福祉センター	体育指導員
2.16	令和元年度近畿ブロック障がい 者スポーツ指導者協議会	丸 善 イン テ ッ ク アリーナ大阪	体育指導員

頻度	内容	場所	対象
年 10 回	尼崎市介護保険認定審査会	尼崎市役所	理学療法士
年 3 回	阪神南圏域つながりんく会議	アクタ西宮東館他	理学療法士
年 2 回	尼崎 P T O T S T 連絡会	尼崎だいもつ病院	理学療法士
年 2 回	地域ケア代表者会議	女性センタートレピ エ他	理学療法士
年 4 回	ミーツ・ザ・福祉ミーティング他	小田北生涯学習プラザ 他	チーフ・指導員 保健師 理学療法士、
年 4 回	みんなの尼崎大学まちじゅう 学祭実行委員会他	あまがさきひと咲き プラザ他	保健師

頻度	内容	場所	対象
毎月	看護職ミーティング	尼崎市立身体障害者福祉センター	保健師
随時	福祉避難所開設訓練実施に係る打合せ	尼崎市立身体障害者福祉センター他	所長・チーフ理学療法士

(派遣・見学及び訪問等)

日程	内容	場所	参加者
H31. 4. 25	西宮市医師会看護専門学校在宅看護実習オリエンテーション	西宮市医師会看護専門学校	所長 保健師
4. 26	S T T 交流会と審判講習会講師派遣	兵庫県スポーツ交流館	体育指導員
4. 28	第 13 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「車いす使用者の部」競技運営役員	ユニバ記念陸上競技場	体育指導員
R 元. 5. 8	事業所訪問	尼崎市社協会館	チーフ・保健師
5. 8	電動車椅子講習会打ち合わせ	尼崎北警察署	所長・保健師 理学療法士
5. 9	事業所訪問	就労継続支援事業 B 型事業所プーアプー	保健師
5. 12	第 58 回神戸市障害者スポーツ大会「フライングディスク競技」運営役員	神戸市王子スタジアム	体育指導員
5. 18	第 13 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会卓球大会競技運営役員	県立障害者スポーツ交流館	体育指導員
5. 19	第 11 回のじぎく杯吹矢競技大会競技運営役員	県立障害者スポーツ交流館	体育指導員
5. 25	令和元年度体育祭	あまよう特別支援学校	所長
5. 25	第 13 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 ・「陸上競技の部」競技運営役員 ・「フライングディスクの部」身障センター選手団引率 ・「フライングディスクの部」競技運営審判補助	三木総合防災公園	体育指導員 理学療法士
5. 30	施設見学	第二工房羅針盤	理学療法士、 保健師

日程	内容	場所	参加者
5. 31	第 13 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「サウンドテーブル」競技運営役員	県立障害者スポーツ交流館	体育指導員
6. 6	学校訪問および見学	あまよう特別支援学校	所長・チーフ
6. 28	ラジオ出演（事業広報）	エフエムあまがさき	チーフ・保健師
7. 30	立花サマセミ 「ビバ！タチバナのマナビバ」	立花庁舎	所長・チーフ 理学療法士 作業療法士
8. 23	第 8 回のじぎく杯サウンドテーブルテニス大会審判派遣	県立障害者スポーツ交流館	体育指導員
9. 16	2019 年秋季のじぎく杯ボッチャ大会（個人戦） ボッチャ審判員養成事業	兵庫県立障害者スポーツ交流館	理学療法士
9. 26	第 19 回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」 兵庫県選手団結団式	兵庫県民会館	体育指導員
9. 28	令和元年度尼崎市障害児・者スポーツ大会	ベイコム体育館	体育指導員、 保健師
9. 29	第 31 回全国車いすマラソン大会	丹波篠山市役所周辺	体育指導員
10. 3	低年齢層（小田高校学生）に向けての在宅医療の普及・啓発活動	兵庫県立尼崎小田高校	理学療法士
10. 18	やっちゃん部広報活動	武庫之荘総合高校	所長・チーフ
11. 23	2019 みんなのスポーツはばタンフライングディスク大会	県立障害者スポーツ交流館	体育指導員
12. 14	東京 2020 パラリンピック聖火フェスティバル実施にかかる打合せ	尼崎北消防署	所長 理学療法士
12. 24	施設訪問	西宮協立リハビリテーション病院	チーフ
R2. 1. 16	救命講習打ち合わせ	尼崎市北部防災センター	保健師
1. 17	地域連携打ち合わせ	立花地域振興センター	チーフ
2. 11	障害者スポーツマルチサポートスタッフ派遣	県立障害者スポーツ交流館	体育指導員
2. 26	尼崎市におけるパラリンピック関連イベントの報告と県観覧者募集意見交換会	尼崎市役所	所長
3. 5	地域連携イベント打合せ（社協大庄支部）	尼崎市立大庄北生涯学習プラザ	チーフ

【その他】

総合防災訓練 （尼崎市教育・障害福祉センター内）

令和元年 7 月 19 日（金）（地震・火災想定）（通報・消火・避難誘導）

令和元年 11 月 8 日（金）（地震・火災想定）（通報・消火・避難誘導・視聴覚教材）

※ 避難訓練では、エレベーターが使用不能となり、車いすを使用して 1 階まで降りることを想定した実地訓練を行い、理学療法士が館内職員に対し、介助方法の指導を行った。

尼崎市尼崎学園

【総括】

新しい社会的養育ビジョンを進めるために、社会的養育推進計画の進捗状況を各都道府県が示した。しかし、戦後 70 年余りかけてきた児童養護施設の実践と歩みを今後 10 年間で大きく変化させるには少々無理があったように思われる。

この 10 数年、虐待等の不適切な養育環境を生き抜いてきた心身に重い課題を抱えた子どもたちの入所が急増している。生きる上での基盤となるアタッチメントの阻害、慢性的な逆境的体験による心的トラウマ等非常に重篤なものである。家庭的養育とは何かの議論をしつつ、当施設も小規模化に取り組んできた。同時に子どもの抱える課題を解決し、安心して生活が送れるように、各種研修会へ積極的に参加して専門的支援のあり方にも追求してきた。

一方で、前線の養育者の相談に応じ、養育者をしっかりと支えるために高機能化の方向も検討している。支援拠点機能を構成するものとして、ケースのアセスメントや進行管理を含む「マネジメント機能」、「施設養育者・支援者の支援機能」、「人材育成機能」、「関係機関との連携機能」、「養育・支援の評価機能」である。これらの機能強化を目指すために全員職員会議を月 2 回実施して支援の質を高めてきた。

さらに、各市の要保護児童対策地域協議会に参画し、児童養護施設で強化された支援拠点の各機能と個別的養育のノウハウは、地域の子どもと家族への支援にも有効である。施設入所に至らない地域の子育て支援にも協力することはパーマネンシー保障の意味からも極めて重要なことであるため、継続している。

また、令和 2 年度は今後の尼崎学園の目指す方向性を尼崎市と協議する予定である。特に「一時保護機能」、「フォスタリング機能」等の多機能化について協議したいと考えている。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	児童虐待事案を起こさないよう、子どもの権利擁護及び最善の利益を重視した取組を進めて行く。	権利擁護関係の研修会へ積極的に参加した。 また、各ユニット単位で入所児童の意見等が発信しやすい雰囲気づくり（ユニット旅行、お誕生日会等）をすることができた。
2	「新しい社会的養育ビジョン」及び都道府県社会的養育推進計画を踏まえた、今後の施設運営や養育のあり方を尼崎市とともに検討する。	都道府県社会的養育推進計画の策定において、兵庫県の計画案の作成が遅れ、パブリックコメントの実施が年度末になったため、尼崎市との協議検討が進捗しなかった。

目標項目		達成状況
3	家庭養育に近い、「あたりまえの生活」を施設において保障するための支援に取り組む。	学校の部活動への参加やユニットごとの調理実習をはじめとした個人を尊重した個別活動の支援を中心に取り組んだ。
4	児童養護施設に求められる人材の確保と育成・定着を図り、実習生の受け入れ等を積極的に推進する。	人材育成については、各種研修会に積極的に参加し、資質向上に努めた。実習生の受け入れも積極的に行い、46名を受け入れた。しかしながら、人材確保については、採用試験実施時期の関係もあり、予定していた採用枠を埋めることができなかった。

【事業の実施内容】

1 入所児童の自立支援（個々の自立支援計画及び各年間計画に基づき実施）

(1) 生活支援

年間計画及び個々の自立支援計画に基づき、基本的な生活習慣が習得されるように個々の心身の状況や意欲、好みを尊重し、きめ細やかな支援を心がけた。また、日常生活の中で衛生面や病気予防に対する意識が高められるように配慮した。ユニット内で配膳される食事や調理実習を通し、これまで以上に子どもの希望を取り入れながら、栄養面の配慮にとどまらず、喜びや楽しみを得られる食事となるように工夫した。

(2) 幼児保育

年間保育計画に基づき、家庭的な雰囲気の中で落ち着いた生活を送り、心身の成長が図れるように支援した。特に個々の自己肯定感の向上を目指し、褒めることを重視した。

(3) 学習支援

個々に応じた目標を設定し、特に基礎学力の定着に重点をおいて支援を実施した。子どもの特性や希望に配慮し、学習ボランティアや学習塾を積極的に活用した。小学生は、学校教諭と施設職員との連携による支援が学習意欲の向上に繋がった。

(4) 性教育

日常生活の中で、子どもたちが自分の身体や命を大切にする感覚が持てるよう意識した関わりを繰り返した。特に、プライベートゾーン及び自己と他者との境界線を知り、守ることを重視した。また、誕生日には担当職員と一対一で外食を行うとともにユニット内でもお祝いし、一人ひとりが大切な存在であることを伝える機会とした。

(5) 自立訓練

高等学校卒業後、社会人として自立、自活できるよう、在学中のアルバイトを奨励するとともに、調理、洗濯等を体験できる機会の設定を心がけた。

(6) 心理療法事業

臨床心理士を配置し、被虐待等心のケアを必要とする子どもに対し、施設内でプレイセラピー、カウンセリング等、定期的、継続的な個別心理療法を実施した。また、県子ども家庭センター、児童精神科等専門機関への通所によるケアも積極的に行った。

(7) 被虐待児等に対する個別対応

被虐待児等個別の対応が必要とされる子どもへの個別面接等を随時実施した。

(8) 家族調整

個々の自立支援に必要な家族関係再構築を図るため家庭支援専門相談員を配置し、こども家庭センター、福祉事務所等の関係機関と連携し、親子関係の調整に努めた。また、家庭復帰だけではなく、里親委託の促進や措置変更等、より適切な養育環境の提供を目指した。

(9) 社会教育活動及び余暇活動としての行事

子どもの生活体験を豊かにすることや社会におけるマナーの習得を目的として、全体行事、ユニット行事、小グループ（年齢別・趣向別）行事等を実施した。立案にあたっては、できるだけ子どもの意見を取り入れるように心がけた。

（行事等実施状況）

日程	内容	対象
H31. 4. 2	空ユニット個別活動（野球観戦）	児童 1人
4. 7	月ユニット個別活動（外食）	児童 1人
4. 18	空ユニット個別活動（カラオケ）	児童 1人
4. 29	道場町民運動会	児童 37人
R 元. 5. 2	ゴールデンウィーク遠足（ネスタリゾート神戸）	児童 9人
	（映画鑑賞）	児童 15人
	（アスレチック・アドベンチャー施設天空）	児童 11人
5. 4	ゴールデンウィーク遠足（県立人と自然の博物館 他）	児童 3人
5. 17	月ユニット個別活動（外食）	児童 1人
5. 18	月ユニット個別活動（カップヌードルミュージアム）	児童 1人
5. 19	月ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1人
5. 25	星ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 3人
5. 26	月ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1人
	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1人

日程	内容	対象
6. 1	風ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 3 人
	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 2 人
6. 3	小学校代休行事（しあわせの村）	児童 8 人
	幼稚園代休行事（県立人と自然の博物館）	児童 6 人
6. 7	招待行事（神戸どうぶつ王国）	児童 3 人
6. 8	星ユニット個別活動（外食）	児童 3 人
	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
6.10	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 2 人
6.15	花ユニット個別活動（外食・温浴）	児童 1 人
6.24	月ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
6.30	月ユニット個別活動（神戸三宮センター街 他）	児童 1 人
7. 7	招待行事（野球観戦）	児童 6 人
7. 9	月ユニット個別活動（グラッチェガーデンズ北神戸）	児童 1 人
	虹ユニット遠足（須磨海浜水族園）	児童 3 人
7.14	花ユニット個別活動（外食）	児童 1 人
7.21	道場小学校キャンプ	児童 4 人
7.22	月ユニット個別活動（グラッチェガーデンズ北神戸）	児童 4 人
7.26	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
	星ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 3 人
7.27	花ユニット個別活動（イオンモール神戸北）	児童 1 人
7.29	花ユニット個別活動（イオンモール神戸北）	児童 1 人
8. 4 5	空ユニット旅行（岡山県）	児童 6 人
8. 7 8	海ユニット旅行（和歌山県）	児童 6 人
8. 8	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
8.10	卒園生 OB 会（尼崎学園友の会）	児童 40 人
8.12	空ユニット個別活動（カラオケ）	児童 1 人
8.19 20	花ユニット旅行（三重県）	児童 6 人
8.19	空ユニット個別活動（野球観戦）	児童 1 人
8.22 23	月ユニット旅行（和歌山県）	児童 6 人
8.24	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
	星ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 2 人
8.27 28	虹ユニット旅行（淡路島）	児童 6 人
8.29	空ユニット個別活動（イオンモール神戸北）	児童 1 人
8.30	納涼祭（夜店）	児童 42 人

日程	内容	対象
8. 31	社会教育活動（こぶしの会川遊び）	児童 11 人
9. 7	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
	風ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 3 人
9. 8	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
	風ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 2 人
9. 14	月ユニット個別活動（サンリオギフトゲート）	児童 3 人
9. 15 16	星ユニット旅行（ユニバーサルスタジオジャパン他）	児童 6 人
9. 16	月ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
9. 18	月ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
9. 22	招待行事（自衛隊ファミリーコンサート）	児童 12 人
9. 28	空ユニット個別活動（グラッチェガーデンズ北神戸）	児童 2 人
9. 30	虹ユニット代休行事（おもちゃ王国 他）	児童 6 人
	小学校運動会代休行事（六甲山フィールドアスレチック）	児童 6 人
10. 5	グラウンドゴルフ大会（道場小学校）	児童 15 人
10. 13	花ユニット個別活動（イオンモール神戸北）	児童 1 人
10. 14	とりっぶ ing 道場（道場町内）	児童 20 人
10. 15	虹ユニット運動会代休行事（こうべっこひろば）	児童 6 人
10. 20	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 1 人
	月ユニット個別活動（外食）	児童 1 人
10. 26	神戸市小学校陸上競技記録大会	児童 3 人
10. 27	月ユニット個別活動（カラオケ）	児童 4 人
	海ユニット個別活動（外食）	児童 6 人
11. 3	外部行事（こぶしの会主催・焼いも）	児童 14 人
11. 11	小学校音楽会代休行事（伊丹昆虫館他）	児童 6 人
11. 17	空ユニット個別活動（カラオケ）	児童 1 人
11. 24	招待行事（オリックスファン感謝祭）	児童 5 人
12. 10	風ユニット個別活動（カラオケ）	児童 1 人
12. 14	花ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 3 人
12. 15	花ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 2 人
	星ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 2 人
12. 22	月ユニット個別活動（外食）	児童 1 人
	星ユニット個別活動（生きてるミュージアムニフレル）	児童 4 人
12. 25	クリスマス会	児童 42 人
12. 26	招待行事（えほん劇場あかずきんちゃん）	児童 3 人
12. 28	空ユニット個別活動（外食）	児童 2 人
12. 29	外部行事（ガチンコ鬼ごっこ大会）	児童 2 人
R2. 1. 1	初詣（塩田八幡宮）	児童 25 人

日程	内容	対象
1. 2	空ユニット個別活動（映画鑑賞）	児童 6人
1. 11	みんなの文化祭（明石市民会館）	児童 1人
1. 18	月ユニット個別活動（西宮ガーデンズ）	児童 1人
1. 19	月ユニット個別活動（外食）	児童 1人
1. 24	月ユニット個別活動（退所児童送別会・外食）	児童 6人
1. 26	空ユニット個別活動（神戸フルーツフラワーパーク）	児童 2人
	招待行事（自衛隊阪神淡路大震災 25 年記念演奏会）	児童 8人
1. 28	虹ユニット遠足（神戸どうぶつ王国）	児童 3人
2. 2	入所児童自立支援セミナー（宝塚男女共同参画センター）	児童 2人
2. 16	花ユニット個別活動（外食）	児童 1人
2. 19	招待行事（キッザニア甲子園）	児童 3人
2. 25	風ユニット個別活動（退所児童送別会・外食）	児童 6人
3. 14	中学 3 年生卒業お祝い会（園内）	児童 40人
3. 15	海ユニット個別活動（退所児童送別会・園内）	児童 6人
3. 20	花ユニット個別活動（退所児童送別会・園内）	児童 6人
3. 21	空ユニット個別活動（退所児童送別会・園内）	児童 6人

※ 新型コロナウイルス感染症の関係で 3 月の行事予定を中止が多数あり。

(10) 児童の在籍状況及び入退所の状況

ア 在籍状況

在籍児童数 平均 41.8 人（平均充足率 92.8%）

(ア) 月別在籍児童数 (単位 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初日在籍数	41	41	41	42	42	42	42	42	42	42	42	42	
入所児童数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退所児童数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7

(イ) 学齢別児童数（令和 2 年 3 月 1 日現在） (単位 人)

区分	未入園	幼稚園	小学生						中学生			高校生			その他	合計
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
合計	3	3	1	1	2	1	3	0	4	5	4	6	2	3	4	42
男	3	3	1	1	1	1	2	0	2	3	3	4	1	2	3	30
女	0	0	0	0	1	0	1	0	2	2	1	2	1	1	1	12

イ 入所児童の状況

(ア) 入所児童数 1人

(イ) 入所理由

虐待 1人

ウ 退所児童の状況

退所児童数 7人

(内訳)

家庭復帰	2人
就職	4人
進学	1人

2 アフターケア

- (1) 卒園生「友の会」の開催（令和元年8月10日） 40人参加
- (2) 退所児童及び保護者に対する相談支援（随時）

3 地域の子育て支援

- (1) 子育て家庭ショート及び一時保護委託事業

ショーツステイ	なし
一時保護委託	11人

- (2) 要保護児童対策地域協議会への参画
尼崎市・伊丹市・川西市・三田市

- (3) 「子育てほっとラインさんだ」事業委託（閉庁時間帯における子育て電話相談）
電話相談業務の状況（実相談件数のみ）（単位 件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R元年度	31	26	31	36	9	43	34	25	29	123	26	35	448
H30年度	92	19	23	22	29	92	29	29	39	25	37	44	480
H29年度	41	25	95	249	148	101	167	129	21	151	123	37	1,337

(相談結果)

関係機関（三田市含む）へ引継ぎ	8件
電話で解決	6件
三田市へ相談内容の連絡	225件
かけ間違い及び無言電話	209件

【職員研修及び会議等】

(会議)

頻度	内容	場所	対象
毎月2回	全員職員会議(下記のとおり)	職場内交流室	全職員
毎月2回	施設運営会議	園長室	管理職・チーフ
毎月1回	幼児ユニット担当者的会議	虹ユニット	ユニット担当者
毎月1回	男子ユニット担当者的会議	男子ユニット	ユニット担当者
毎月1回	女子ユニット担当者的会議	女子ユニット	ユニット担当者

(研修)

日程	内容	場所	参加者
R 元 .5. 9	児童福祉新任職員研修	兵庫県福祉人材研修センター	指導員
6. 9	全国児童養護施設岡山セミナー研修	ピュアリティまきび	指導員
6.13 21	兵庫県社会福祉援助基礎研修	兵庫県福祉人材研修センター	指導員
6.25	トラウマケア研修	中央子ども家庭センター	チーフ 指導員
6.26 27	近畿児童養護施設研究協議会 びわこ大会	琵琶湖ホテル	園長 指導員
7. 9 10	社会福祉法人主任・係長講座	新大阪江坂東急ホテル	副園長
7.23	自立支援計画策定と見直しに関する研修	県ひょうご女性交流館	チーフ
8. 5	特定給食施設研修（栄養士対象）	兵庫県民会館	栄養士
8. 6	特定給食施設研修（調理師対象）	兵庫県民会館	調理師
8. 7 8	対人支援職員研修	兵庫県こころのケアセンター	指導員
8. 9 10.11	家庭支援担当職員等特別研修	中央子ども家庭センター	チーフ 指導員
8.29	こども家庭センター職員公開講座	中央子ども家庭センター	副園長 指導員
9.18 20	西日本児童養護施設職員セミナー	松山市民会館	指導員
10. 1	フレッシュマン研修	兵庫県福祉センター	指導員
10.10 11	安全衛生推進者養成講座	尼崎商工会議所	園長
11.19 22	児童養護施設職員指導者研修	こども研修センター 明石	指導員
11.20	アセスメントシート作成研修	県福祉センター	チーフ
11.27～ 29	全国児童養護施設長研究協議会 徳島大会	徳島グランヴィリオ ホテル	園長
12. 2	県テーマ別研修	中央子ども家庭センター	指導員
12. 5	児童養護施設中堅職員研修	神戸市民福祉交流センター	指導員
12. 7	清水が丘学園児童心理臨床セミナー	清水が丘学園	指導員
12.14	施設生活支援実践研修	ラッセホール	チーフ

日程	内容	場所	参加者
R 2. 1. 22	県一時保護所職員等研修	中央子ども家庭センター	指導員
1. 31	児童福祉施設職員スキルアップ研修	兵庫県福祉センター	チーフ指導員
2. 17	栄養士・調理師研修	兵庫県福祉人材研修センター	栄養士
2. 21	子どもの理解と発達支援研修	兵庫県福祉人材研修センター	指導員
2. 24	県施設保育士養成研修	ホテル北野プラザ六甲荘	指導員
3. 4	レクリエーション研修	三木山総合体育館	指導員
3. 6	施設実習研修	兵庫県福祉センター	指導員

1 全員職員会議

(1) 実施日 概ね月 2 回

(2) 内容

- ・ 行事等の予定と内容確認
- ・ 子どもの支援状況確認及び支援方法についての議論
- ・ 職員の援助方法の確認と点検等
- ・ 職場内研修会

(3) 主な効果

- ・ 全職員が顔を合わせることによる情報の共有及び議論だけでなく、コミュニケーションを図る一助となった。
- ・ 日頃の疑問や不安をお互いが口にするにより、自己点検、相互点検の機会になった。
- ・ 職員研修を概ね月 1 回実施することによりスキルアップに繋がった。

2 職員交流会

兵庫県児童養護施設連絡協議会女子職員バレーボール大会 尼崎学園 3 位

【その他】

1 自衛消防訓練の実施 (月 1 回実施)

H31 年 4 月 13 日	R 元年 5 月 25 日	6 月 29 日	7 月 31 日
8 月 29 日	9 月 22 日	10 月 27 日	11 月 23 日
12 月 30 日	R2 年 1 月 25 日	2 月 29 日	3 月 31 日

2 第三者評価受審

令和 2 年 2 月 5, 6 日

尼崎市立たじかの園

【総括】

令和元年度は、育児休業や新規採用職員が多い中で、児童発達支援に求められている支援（発達支援、家族支援、地域連携）の質、災害等の非常時や虐待防止に向けた体制をいかに維持向上させていくかが大きな課題であった。支援の質については、園の療育を「たじかのっこの大きな木」という可視化したイメージにして職員の意識を高め、内外の研修やディスカッション、園全体でのケーススタディーを通して維持向上に努めた。また、保護者支援については、保護者勉強会や、母子訓練のサポート等で拡充した取組を行った。体制面では、園内のリスク管理委員会、虐待防止委員会等を通して、それぞれの取組を強化した。また、努力義務である児童発達支援の自己評価を行い、その内容をホームページで公表した。アンケートでは、回答者すべてが「子どもは通園を楽しみにしている」と答えており、取組には一定の成果があったと評価している。一方で、診療や障害児等療育支援事業の実施件数は減っており、支援の量の確保については今後の課題である。

令和2年3月3日以降、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、休園を余儀なくされたが、園児や保護者の在宅でのストレスや不安の軽減を図るため、園開放、リハビリテーション、来園時の懇談の他、電話連絡、園だより「たじかのっこ」のホームページ掲載、遊びや体操の動画配信等を行った。支援情報のタイムリーな発信には、令和元年度に導入した災害時連絡システムが役立った。長期間の休園を経験し、園として平常時から「在宅生活に役立つ支援」を意識する必要性を痛感したところである。この先再び、長期の休園を余儀なくされる状況が生じる可能性も否定できないことから、緊急事態時での支援の方法、質の維持については引き続いての課題であると考えている。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	支援内容の充実、職員の資質向上に努め、支援力の維持・向上に努める。	発達支援では、喀痰吸引を実施する職員が2名増えた。また、母子訓練の方法を書面で保護者に伝える新たな取組を行った。家族支援では、保護者支援の係を設置し、権利擁護研修などニーズに沿った5回の研修を実施した。 職員の資質向上に向けては、すべての新任職員にメンターを付け指導した。また、部門内でのディスカッション、外部講師による指導を計画的に実施したほか、多職種連携を学ぶ機会として、園内事例検討会を行った。ケースカンファレンスでは、新任職員も積極的に発言をするようになっている。 体制面では、災害時連絡システム「ミマモルメ」を導入したほか、防災マニュアルの見直し、福祉避難所開設訓練、虐待研修の実施等を行った。

目標項目		達成状況
2	情報交換等を通して、関係機関との連携を強め、地域への発信力を高める。	社会福祉協議会園田支部と共催で、ボランティア講座を開催し、3名の参加者があった。参加者に園のボランティアをしてもらう予定にしていたが、休園となったためできなかった。ボランティアの人数、希望者が増えてきており、今後、どう活用していくか検討が必要である。 尼崎市子どもの育ち支援センター「いくしあ」との連携については、職員の引継ぎ、研修の受け入れ（29回のべ53人）のほかに、会議などにも出席し、相互理解を得る努力をした。

【事業の実施内容】

1 医療型児童発達支援

個々の子どもの発達ニーズと保護者のニーズを把握し、個別支援計画やリハビリテーション実施計画に沿った発達支援、治療、家族支援、地域連携を行った。

子どもの発達状況や支援の内容を検討するため、担当でケースカンファレンスを89回行った。

(1) 利用者の在籍（契約）契約状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初日在籍数	32	32	35	36	36	37	35	36	36	35	35	35	
入園児数	5		3	1		1		1					11
修了児数						2			1			12	15
延べ利用日数	233	329	391	381	204	344	374	371	283	281	304	19	3,514
延べ出席日数	213	297	354	329	176	295	327	328	249	247	270	16	3,101

※ 年間延べ契約者数は、昨年比16名多かった。

(2) 支援内容

ア 発達支援

保育、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、発達検査、給食、単独療育、栄養相談（22件）、定期診察、定期健診（耳鼻科、眼科、歯科、エックス線検査各年1回）、健康管理（身体測定 毎月）。

イ 家族支援

内容	回数・頻度等	内容	回数・頻度等
保護者勉強会	5回	リフレッシュタイム	1回
ミニ講座	24回	お母さんのうんどう教室	14回
家庭訪問	13件	クラス懇談、進路懇談等	随時
グループトーク	5回	わくわく療育参観	随時 延べ30人

ウ 地域連携

内容	回数・人数 等
卒園・修了児アフターフォロー	7 人
関係機関療育見学会	参加者 29 人
保育所交流	5 回
グループハウス交流	2 回
実習生受け入れ	実人数 19 人 延べ 38 日

卒園・修了する園児については、進路先との会議を行い、丁寧に移行支援を行った。また、たじかの園と他の児童発達支援事業所を並行利用している児童については、個別支援計画のやり取りや施設見学等を通して、共通した内容の支援が受けられるよう配慮した。その他、他機関とのケース会議にも出席した。

リハビリテーション目的の長期入院児童には、退院時に入院先に訪問し、担当スタッフと、身体現状と課題の確認を行った。

(3) 行事等の実施状況

日程	内容	対象
H31. 4. 9	始業式	全園児
R 元. 5. 17	春の遠足（笹原公園）	全園児
5. 24	就学に関する説明会	4, 5 歳児保護者
6. 10	眼科・歯科検診	全園児
6. 18	耳鼻科検診	全園児
6. 21	進路「先輩お母さんの話を聞く会」	保護者
6. 23	にこにこ日曜参観	全園児・保護者
6. 28	あまよう特別支援学校見学会	5 歳児
7. 1	プール開き（～9/4）	全園児
7. 3	進路「サポートブックを作ってみよう」	3～5 歳児保護者
7. 11	保護者勉強会「歯のはなし」	全園児
7. 26	夏のつどい	4, 5 歳児
8. 9	1 学期終了日	登園日児童
8. 26	2 学期始業日	登園日児童
9. 4	バス遠足（アミティ舞洲）	全園児
9. 13	敬老の日グループハウス訪問	3～5 歳児
9. 27	保護者勉強会「尼崎市の福祉制度について」	保護者
10. 23	お芋ほり	3～5 歳児
11. 17	たじかのっこ交流会	全園児・保護者
11. 20	エックス線検査	全園児
他 3 日		
11. 29	関係機関療育見学会	登園日児童
12. 3	保護者勉強会 「支援を必要とする方への尼崎市の災害対策」	保護者

参加日	内容	対象
12. 17	クリスマス会	0～2歳児
12. 20		3～5歳児
12. 24	2学期終了日	登園日児童
R2. 1. 8	3学期始業日	登園日児童
2. 14	保護者リフレッシュタイム「フラダンス」	保護者
2. 14	たじかのっこ展（わくわく療育参観）（～3/2）	全園児
3. 24	卒園式、修了式	卒園児、修了児、保護者
毎月	お誕生日会	登園日児童
毎月	身体測定	登園日児童
随時	入園式	新入園児
随時	わくわく療育参観	保護者・家族
毎月2回	リハビリテーション科嘱託医診察	対象児童
年間14回	お母さんのうんどう教室	保護者
年間24回	ミニ講座	登園日保護者
年間3回	立花南愛児園との保育交流	3歳児
年間2回	大西保育所との保育交流	4～5歳児

2 保育所等訪問支援

発達に心配のある子どもや集団での行動が苦手な子どもが通う保育所（園）、幼稚園、小学校等に、専門的な知識・技術を持つ保育士、言語聴覚士、臨床心理士等の訪問支援員が月に1回程度訪問して、対象児が集団で生活しやすくなるよう個別支援計画に基づき、本人への支援と同時に担任や保護者に対し関わりの工夫や配慮を助言した。

初回、モニタリング時は、児童発達支援管理責任者が訪問支援員と一緒に訪問し、支援の実施状況や方向性を確認した。

年間実施回数は47回であった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	5	5	5	4	4	5	5	4	3	5	5	4	54
利用日数	4	3	5	4	4	5	5	3	2	5	4	3	47
児発管・支援員 訪問延べ回数	5	5	5	6	4	6	5	3	3	7	5	3	57

3 医療保険による診療

医師が0歳から高校卒業までの乳幼児及び児童・生徒に対し診療を行うほか、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士が医師の指示に基づき、個々の子どもの症状に応じたりハビリテーション、発達検査を行った。

(1) 診療実績

令和元年度の初診は、101件であった。

定期診療および装具に関する診療は、それぞれ523件、295件であった。

(2) 理学療法・作業療法・言語聴覚療法・摂食機能療法・各種検査実績

園児	外来	合計
3,177 件	1,832 件	5,009 件

4 障害児等療育支援事業

尼崎市からの委託により、たじかの園のもつ療育機能を、在宅の障害児（者）や発達に不安のある子どもとその家族を中心に幅広く提供し、身近に療育相談や助言指導を行うために、本事業を実施した。

(1) 在宅支援訪問療育等指導事業

家庭や所属施設への訪問により、発達相談や療育指導、助言などを行った。

(2) 在宅支援外来療育等指導事業

外来による発達相談、個別やグループでの療育指導、助言などを行った。

(3) 施設支援一般指導事業

保育所、幼稚園、学校等の職員へ、講義や実技形式での実践指導を行った。

(4) 件数実績

在宅支援訪問療育等指導事業	在宅支援外来療育等指導事業	施設支援一般指導事業
61 件	1,082 件	36 件

【職員研修及び会議等】

(研修)

日程	内容	場所	参加者
H31. 4. 15	リズム研修	あこや学園	保育士
R 元. 6. 1	マカトン法ワークショップ基礎 I コース	アネックスパル法円坂	言語聴覚士
6. 15	近肢連 PT・OT 部会研修	枚方市総合福祉会館	理学療法士
7. 2	相談支援虐待研修	研修室	園長
7. 16	OJT リーダー養成研修（基礎編）	兵庫県福祉人材研修センター	保育士
7. 27	シェルボーンムーブメント療法研修	子ども発達支援センター	言語聴覚士
8. 24	近肢連給食部会	大阪発達総合療育センター	栄養士
9. 7	近肢連看護部会	神戸市勤労会館	看護師
9. 7 8	SIG 姿勢保持講習会 2019 in大阪	山西福祉記念館	理学療法士
9. 12	集団的個別支援指導研修	兵庫県民会館	医師・主任
9. 18 19	ネルク講習会「発達を学ぶ」	MK ボウル上賀茂	理学療法士
9. 19	医療的ケア児等支援者養成研修	兵庫県福祉センター	保育士

日程	内容	場所	参加者
10. 10 11	安全衛生推進者養成講習	尼崎商工会議所	園長
10. 16	障害者虐待対応力向上研修	姫路・西はりま地場産業 センターじばさんびる	チーフ
10. 21	障害児通所支援事業所研修会	兵庫県民会館	主任
10. 30	医療的ケア児等支援者養成研修	兵庫県福祉センター	保育士
11. 2	看護実践セミナー「重症心身障害児 者の急変にどう対応したらいいか」	兵庫県民会館	看護師
11. 2	近肢連心理部会研修	西宮勤労会館	心理士
11. 28	全事協近畿ブロック研修	堺市産業振興センタ ー	園長
12. 3	障害者虐待対応力向上研修	姫路・西はりま地場産業 センターじばさんびる	チーフ
12. 7	近肢連保育部会研修	キャンパスプラザ京都	保育士
R2. 1. 10	全事協近畿ブロック研修	グランフロント大阪	保育士
1. 16	あまよう特別支援学校 校内防災研修会	あまよう特別支援学校	園長 主任
2. 1	近肢連言語部会「ダウン症児の摂食 嚥下機能障害への支援」	東大阪クリエイターズ プラザ	言語聴覚士
2. 5	障害児通所支援事業所研修会	ビブレホール	園長
2. 8	第 29 回近肢連療育研究大会	サンスクエア堺	言語聴覚士 作業療法士

(通園部門 施設内研修)

頻度	内容	対象
全 19 回	新任職員研修	新任職員
全 4 回	普通救命救急講座 人工呼吸器勉強会 全体勉強会（症例検討） 虐待研修	全職員
その他	外部講師による症例指導研修（PT 3 回・ST 8 回） 喀痰吸引研修 伝達研修・症例検討会・自主研修（PT 8 回・OT 2 回・ST 2 回）	対象職員

(他機関会議等)

頻度	内容	場所	対象
5 回	尼崎市自立支援協議会 あまっこ部会会議	教育・障害福祉センター他	園長
3 回	尼崎市教育支援委員会	教育・障害福祉センター他	チーフ

頻度	内容	場所	対象
3回	近肢連役員会・総会	東大阪市立障害児者支援センターレピラ	園長 チーフ
1回	いくしあオープン会議	尼崎市立すこやかプラザ	園長 児発管
1回	いくしあ専門家会議	子どもの育ち支援センター いくしあ	園長
1回	阪神地域特別支援連携協議会	西宮市立こども未来センター	園長
1回	あまよう特別支援学校入学選考委員会	あまよう特別支援学校	園長
7回	関係機関式典・行事等		園長

(施設内会議)

頻度	内容	対象
週1回	運営会議	園長・主任・チーフ
月2回	連絡調整会議	園長・主任・チーフ・児発管 各部門代表者
5回	虐待防止委員会	園長・主任・チーフ・児発管
8回	リスク管理委員会	委員
8回	保護者支援検討	委員
4回	給食（食育）検討委員会	委員
3回	感染症対策委員会	医師・看護師・園長
3回	行事検討委員会	委員
89回	ケースカンファレンス	担当者

【その他】

非常災害訓練の実施

- (1) 館内自衛消防訓練
令和元年11月8日

- (2) 自主訓練

内容	日程
火災訓練	H31年4月26日、R元年5月27日、6月25日、R2年2月13日
風水害	R元年8月28日
地震	R元年7月19日、9月26日、R2年1月17日
不審者対策	R元年12月11日

- (3) 福祉避難所開設訓練
令和元年8月22日

【資料編】

1 園児疾患別状況（令和2年年3月1日現在）

	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
脳性麻痺			1	1	2		2	2	1	1		1	6	5
超低出生体重児							1			1			1	1
染色体異常			1		1	1	1				1		4	1
精神運動発達遅滞		1	1	2		1				2			1	6
その他				1	2	2	1			1	1	2	4	6
小 計		1	3	4	5	4	5	2	1	5	2	3	16	19
合 計	1		7		9		7		6		5		35	35

2 令和元年度 卒・退園児進路状況

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
卒園	あまよう特別支援学校						4	4
	特別支援学級						1	1
修了等	あこや学園			2	1	1		4
	保育所・幼稚園		2	1				3
	他施設		1					1
	転居	幼稚園						0
		保育園						0
		他施設			1			1
	在宅（長期入院含む）				1			1
	死亡							0
合 計		0	3	5	1	1	5	15

養護老人ホーム長安寮

【総括】

養護老人ホームの果たすべき役割として、入所者の社会復帰への促進及び自立の支援が求められる中、入所者の意思及び人格を尊重し、明るく豊かに生きがいのある生活を送ることができるように、入所者一人ひとりの身体的、精神的特性に応じた生活支援に努めてきた。また、さまざまな課題を抱える入所者が増える中でも、入所者の立場に立った施設サービスの提供に努めた。

養護老人ホーム本来の理念を実現することを目的として、介護保険事業における「営利第一」ではなく、入所者に安心を付与する「福祉理念」を基本に考え、要介護者に適切かつ必要な介護サービスを提供するよう努めた。

経営面については、令和元年度も退所者に比べて入所者が少ない状況であり、収支の均衡を図ることはできなかった。更に施設の老朽化が進む中、入所者の安全面を配慮しながら応急措置的な修繕で対応してきたが、施設の安定的な運営を図っていくためには、設備の大幅な更新が不可欠である。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止については、令和2年2月に国から示された入所施設における対策マニュアル等に基づき、緊張感を持って対策に取り組んでいるところであり、職員一同、相当の精神的負担を感じながらも使命感を持って職務に当たっている。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	養護老人ホームパッケージプランに基づいた統一した支援を行う。	養護老人ホームとして、課題を抱える入所者の生活支援施設という役割を重視した。その中でも利用者個人の尊厳や人権を重んじ、個別ニーズに沿った支援を実現するため、入所者と職員の合意による目標を設定し、目標達成のためのサービス内容を決める「支援サービス計画」の作成を行った。
2	職員の介護技術向上のため研修への積極的かつ計画的な受講を図る。	身体介護や生活援助の他に、入所者は様々な課題を抱えているケースが多く、介護技術はもちろん、ソーシャルワーク技術も求められる。宿直、日直の勤務体制や職員配置が少ないこととの関係で、日程が固定されている外部研修への参加の調整に苦慮したが、新任職員は高齢者福祉新任研修を受講し、また中堅職員は養護部会主催の研修に参加することで、入所者に対する介護技術の向上に努めた。

目標項目		達成状況
3	次年度の歳入を見越し、計画的に入所者の受け入れ及び介護サービス利用を行う。	退所人数に比べ、入所人数が減少傾向にある状況で、少しでも養護老人ホームの存在を知ってもらい入所につなげるため、地域福祉、地域づくりの活動をされている民生児童委員の方々に対して、定例会の場で説明を行った。 本来は高齢者を「介護」する施設ではなく「養護」する施設であるという点が大きな特徴であるが、要介護の入所者に対しては、介護保険制度下の特定施設入居者生活介護等の形態で必要なサービスを提供した。
4	積極的にレクリエーションを行い、ADL 及び認知機能の低下予防を図る。	業務用通信カラオケ JOYSOUND を導入し、曲に合わせて歌ったり、手先や頭を使うレクリエーションを行ったりすることで、脳の活性化を促し、認知症の予防やフレイル（虚弱）の進行を遅らせるよう努めた。

【事業の実施内容】

1 介護及び生活相談

入所者が抱える生活全般に係る問題について、生活相談員等が個別面接を実施し、入所者の意見を尊重しながら具体的な方策を導き出して問題解決を図った。

また、入所者の日常生活上の処遇について、支援員、介護職員及び外部ホームヘルパーを中心に食事、入浴、通院、更衣等において適時必要な援助を行った。

介護が必要な利用者に対しては、個々にケアプランを策定し、ホームヘルパーやデイサービスの利用を含め、生活の様々な場面で援助にあたった。

2 栄養指導

管理栄養士が、栄養バランスを考えながら入所者個々の嗜好や摂取量を把握して栄養指導を実施した。また、食を楽しめるよう献立に選択食を実施したり、利用者の栄養必要量等を考え、盛り付け量を分けたり、きざみ、油抜き、減塩等の特別食の提供に努めた。

3 健康管理

入所者に対して、嘱託医師による週1回の診察を実施し、健康管理及び助言を行った。また、日常生活面においては看護師をはじめ全職員が入所者の健康状況を把握するとともに、年2回の定期健康診断を実施した。特にインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の予防対策に万全を期すよう努めた。

4 入所者の状況

(1) 年齢（令和2年3月31日現在）

年齢 性別	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90～ 94 歳	95～ 99 歳	100～ 104 歳	合 計 (人)
男	0	4	2	7	2	0	0	0	15
女	0	3	2	6	5	4	0	0	20
計	0	7	4	13	7	4	0	0	35

(2) 入所者の介護認定

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計（人）
人数	3	1	13	3	1	0	0	21

(3) 入所者の措置市町

市町	尼崎市	枚方市	大阪市	富田林市	神戸市	安芸太田町	計（人）
人数	27	1	1	1	4	1	35

(4) 本年度中の入所者数（令和元年度）

	尼崎市	市外	計（人）
人数	2	0	2

(5) 本年度中退所者数（令和元年度）

退所原因	帰郷	他施設	医療機関	死亡	その他	計（人）
人 数	0	3	7	0	0	10

(6) 高齢者緊急一時保護事業（令和元年度）

保護期間（日）	1 日～5 日	6 日～10 日	11 日～15 日	計
利用人数（人）	0	0	1	1
延べ保護期間（日）	0	0	14	14

令和元年度 高齢者緊急一時保護状況 ： 利用者数1名、保護延べ期間 14 日

5 行事等の実施状況

日程	内容	対象
H31. 4. 4	兵庫県議会議員尼崎市選挙区不在者投票	希望者
4. 8	花まつり（若葉保育園との交流）	希望者
R元. 5. 3	菖蒲湯	全入所者
5. 5	端午の節句（行事食）	全入所者
5.23	春の健康診断	全入所者
6. 5	鍼灸マッサージ（尼崎市保険鍼灸師会）	希望者
7. 4	地域交流七夕祭り（東難波乳児保育所との交流）	希望者
7.17	参議院議員通常選挙不在者投票	希望者
8.20	健康教室（衛生指導）	希望者
8.22	盆踊り大会（地域交流）	全入所者
8.27	長安寮としわ会総会	全入所者
9. 1	ファーストレディ訪問販売	希望者
9.16	敬老の日の式典	全入所者
9.19	彼岸の法要（尼崎市佛教会）	希望者
10. 1	トライやるウィーク（あまよう特別支援学校）	希望者
10. 9	秋の健康診断	全入所者
10.11	鍼灸マッサージ（尼崎市鍼灸マッサージ師会）	希望者
10.23	演芸大会（地域交流）	全入所者
11. 5	落花生・芋掘り（東難波乳児保育所との交流）	希望者
11.12	インフルエンザ予防接種	全入所者
11.21	秋季レクリエーション（高原ロッジ）・秋の会	全入所者
12. 1	もちつき大会（地域交流）	希望者
12.12	尼崎市老人クラブ連合会慰問	希望者
12.18	クリスマス会（開明かしの木保育園との交流会）	希望者
12.19	長安寮クリスマス会（地域交流）	全入所者
R2. 1. 1	新年祝賀会	全入所者
2. 2	節分豆まき	希望者
3. 5	ひな祭り	希望者
毎日	朝の健康ラジオ体操（日・祝除く）	希望者
毎週	カラオケ大会・レクリエーション・嘱託医師定期診察	希望者
毎月	お誕生日会・スカットボール大会・華道クラブ	希望者
随時	園芸・塗り絵・季節の壁画制作・選択食 生活相談員による個別相談	希望者

【職員研修及び会議等】

1 主な研修・会議の参加状況

日程	内容	場所	参加者
R 元. 6. 3 27	チーム・マネージメントリーダー研修	兵庫県福祉人材研修センター	チーフ
6. 6	高齢者福祉新任職員研修	兵庫県福祉人材研修センター	生活相談員 支援員
6. 11	ほのぼの個別相談会	リコージャパン西宮営業所	介護支援専門員
6. 28	阪神ブロック施設長会総会 意見交換会	あいな清和苑	施設長 チーフ
9. 18 25	社会福祉法人会計研修	神戸市教育会館	施設長
10. 11	令和元年度介護保険サービス事業者等集団指導	あましんアルカイックホール	介護支援専門員
12. 7	あまつなぎ事例発表会	市民健康開発センター 「ハーティ 21」	介護支援専門員
R2. 1. 21	兵庫県老人福祉事業協会 養護部会職員研修会	兵庫県福祉センター	主任支援員
1. 29 30	安全衛生推進者養成講習会	尼崎商工会議所	施設長
2. 18	兵庫県老人福祉事業協会 養護部会施設長研修会	兵庫県福祉センター	施設長
2. 19	全国社会福祉事業団協議会 近畿ブロック防災研修	京都府立総合社会福祉会館	主任支援員 生活相談員

(会議)

頻度	内容	対象
年間 4 回	入所判定委員会	施設長
月 1 回	支援員ミーティング	生活支援員・生活相談員・看護師
月 1 回	ケアプラン委員会	介護支援専門員・生活相談員・支援員
月 1 回	全体職員会議	全職員

2 支援員ミーティング

入所者への処遇について検討を行った。

3 ケアプラン委員会

特定入所者（介護保険サービスを受けている）についてのサービス調整を委託事業者と介護支援専門員・生活支援員・生活相談員間で行った。

【その他】

非常災害訓練

1 日中想定（5月28日）

総合訓練（通報、消火、避難及び防災）

2 夜間想定（11月6日）

消火・避難訓練を実施するとともに、尼崎市中消防署員の指導のもと、水消火器にて消火訓練を実施した。

3 避難訓練

地震・津波・火災災害を想定して、階段昇降機の使用方法や消火器の場所を再確認するために、小規模の避難訓練を年間4回実施した。

尼崎市立身体障害者デイサービスセンター

【総括】

身体障害者デイサービスセンターは、外出や就労が困難で在宅生活を主としている常時介護などの支援が必要な身体障害者を対象として、「障害者総合支援法」の生活介護事業に定められた運営基準に基づき、利用者の方々が地域で安定した生活を営むことができるよう、身体能力、日常生活能力の維持向上を基本とするサービス提供を行ってきた。

令和元年度から5年間の指定管理を引き続き受けることとなったが、その際、指定管理者選定委員会から改善すべき付帯意見として3項目が示された。1つ目の「利用率の向上」については、平成30年度と同じ状況であり、更なる努力を要すると認識している。2つ目の「介護職員に男性が不足している」については、男性職員を1名増員することができた。3つ目の「医療的ケア」については、現在、看護師以外の痰吸引の有資格者が不在となっていることから、まずは介護職員の資格取得の推進を図っていくものである。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、令和2年3月3日から当面の間、プール事業を休止したが、生活介護事業については、様々な感染防止策を講じた上で継続実施した。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	1日当たりの利用者数を定員20人に近づけていく。	令和元年度の1日の平均利用数は10.1名であった。利用者のうち、常時介護が必要な重度の身体障害者（障害支援区分5・6）が全利用者の9割を超えており、この状況の中で食事介助、入浴介助及び介護室での介護サービスを提供している。令和元年度は正規職員2名を増員したが、その一方でアルバイト職員の退職者が相次ぎ、利用者の安全確保やサービスの質の維持向上を図る上で、定員を満たすことが困難な状況であった。 職員の随時募集や人材派遣による職員の補充に努めたが、欠員を解消するまでには至らず、令和2年度での人事異動も含めた体制の整備を図っていくこととした。
2	職員体制を整備し、他施設との連携強化を図る。	かねてからの課題であった職員体制は、正規の介護職員を2名増員するなどの整備を図った。 他施設との連携では、例年通り事業団内の職員派遣を受け、事業を展開した。また、医療分野において他施設の看護師と「看護職ミーティング」を立ち上げ「感染症マニュアルの作成」等、施設の枠を越えて連携強化を図った。

目標項目		達成状況
3	喀痰吸引等事業者としての体制強化を図り、実施体制を整える。	喀痰吸引等研修を嘱託員4名が受講し、喀痰吸引の体制を整えていたが、令和元年度当初に職員の退職等が重なり、看護師以外の痰吸引の有資格者が不在となった。現在、正規の介護職員を中心に資格取得の取組を進めており、引き続き、実施体制の整備に努めていく。
4	地域との交流を推進し、地域交流に努める。	平成30年度度につき、地域交流として、吹奏楽グループ「弁天ウインドアンサンブル」によるボランティアを受け入れ、地域の一般の方も参加された。 令和元年度は近隣の大学との連携を図り、学生の音楽ボランティアとして受け入れ、利用者との交流を図った。 尼崎市立あまよう特別支援学校との連携を図り、在校生の実習受入れ及び教職員の研修の受入れを実施した。

【事業の実施内容】

1 生活介護事業

利用者の日中活動の場として、送迎支援、食事支援、排泄支援、入浴支援のほか、社会参加活動を通して生活の充実を図るとともに、保護者への負担軽減を行ってきた。

利用にあたっては、利用者の希望、保護者の希望等を踏まえた個別支援計画を作成し、介護職員、看護師が中心となり支援にあたった。

支援内容については、定期的にカンファレンスを開催し、必要に応じて他のサービス利用機関とも合同会議を開催し、よりよい支援に努めた。

介護にあたっては夏の猛暑時を含めて水分補給をしっかりと行い、利用者の様子を細かくチェックするなど急変時にも対応できるようにした。

新型コロナウイルスの感染予防対策として、職員の検温、利用者の自宅での検温、送迎時も含めた手指消毒の徹底、定期的な換気等を行った。

(1) 健康管理・医療的ケアの実施

利用者の健康管理については、送迎時、保護者から家庭での摂食・睡眠・排泄等の状況を伺いながら体調の管理に努めた。

デイサービスセンターに到着後は、看護師が体温・血圧等のバイタルチェックを行い、必要に応じて保護者と連絡を取り、利用者の負担増加にならないように配慮した。

また、毎月1回体重測定を行ない、昼食後の口腔ケアにも丁寧に取り組んだ。

さらに、車いすの利用者に対しては、座位だけではなく、カーペット敷の床に降りてもらったり、ベッドを利用したりして、全身（部位）運動を介護職員と一緒に取り組んだ。

医療的ケアの必要な利用者6名については看護師がケアを行い、ケアの内容は経管栄養、吸引及び導尿であった。

(2) 食事支援

利用者の期待が高い食事場面について、明るい食堂で、介護者と会話しながら楽しく食事ができる雰囲気大切にしました。

食事提供に関しては、献立及び調理を外部委託している。献立の内容については委託先の栄養士と連携をとり、季節感のある献立とした。

施設内の厨房で調理し、出来立ての食事を、利用者の咀嚼嚥下能力に応じて「普通食」、「きざみ食」、「極きざみ食」、「ミキサー食」で提供した。

(3) 排泄支援

排泄支援については、個人の感情やプライバシーに配慮しながら、できるだけ自己の排泄能力を維持できるよう支援を行った。介助者は排泄物の状況を見ながら、本人の体調をチェックして必要に応じて保護者と確認した。

(4) 入浴支援

明るく広い入浴室でゆったりと入浴していただけるよう、利用者の身体状況に応じてリフト浴や座位浴等を実施した。

自宅での入浴が困難な方の入浴が多く、保護者の負担軽減につながっている。

(5) 社会参加活動

令和元年度は利用者を小グループ（2～3人）に分けて、数日間、近隣の商業施設等へ公用車を使って出かけ、買い物、食事（昼食）、見学を楽しんだ。

(6) レクリエーション活動

季節に応じて、春は桜の花見、夏はおはじき落とし、スイカ割りゲーム等の「夏のレクリエーション」、秋は社会参加活動、冬はボランティアの方々にも来ていただきクリスマス会を開催した。

地域との交流活動として大学生の音楽ボランティアに来ていただき、音楽レクリエーションも実施した。

(7) 創作的活動

集団での活動が困難な利用者に対して、個別の活動として、カラオケ・手芸・絵画・折り紙等を行った。

(8) スポーツ活動

個人の能力に応じて、ボウリング・風船バレー等のゲームを行い、楽しんで体を動かす機会を提供した。

(9) プール活動（希望者を対象）

外部講師に来ていただき、プール活動を実施した。また、身体障害者福祉センターから体育指導員の派遣協力を得ながら事業を実施した。（延べ26人）

(10) 機能訓練（希望者を対象）

外部講師として理学療法士に来ていただき、希望に応じて、身体能力の維持・改善を目的に機能訓練を実施した。また、理学療法士から介護職員に対して平時の利用者支援への助言をもらい、実践した。（延べ 125 人）

(11) リフト付き車両による送迎

4 台のリフト付き自動車を用いて、各車両運転手 1 名と介護職員 1 名で送迎サービスを提供した。また、必要に応じて、看護師が添乗した。

送迎については安全な運行に細心の注意を払い、送迎運転手に対する安全教育を実施した。

(12) 利用実績

ア 在籍状況（令和 2 年 3 月 31 日現在）

契約者数 32 名（週 3 日通所 8 名、週 2 日 9 名、週 1 日 10 名、その他 5 名）

令和元年度中の新規契約 2 名、契約終了 2 名（他施設利用）

イ 利用状況

(7) 生活介護

年間延利用者数 2,415 名

1 日平均利用者 10.1 名

（平成 30 年度は、年間延利用者数 2,558 名、1 日平均利用者 10.6 名）

(i) 入浴サービス

年間延べ利用者 1,337 名、1 日平均利用者 5.6 名

（平成 30 年度は、年間延べ利用者は 1,494 名、1 日平均利用者 6.2 名）

(u) 送迎サービス

年間送迎回数 4,689 回（片道を 1 回）

（平成 30 年度は、年間送迎回数 4,879 回）

ウ 月別利用者数状況（契約者数は毎月 1 日現在の実数）

	開所 日数	予定 人数	利用 件数	入浴 件数	平均 利用	平均 入浴	送迎	給食	相談	機能 訓練	契約者数
4月	20	236	200	119	10.00	5.95	387	185	4	12	32
5月	20	243	225	133	11.25	6.65	436	207	2	12	32
6月	21	244	211	127	10.05	6.05	410	191	6	12	32
7月	21	250	224	134	10.67	6.38	435	204	1	12	32
8月	21	251	203	125	9.67	5.95	395	190	0	9	32
9月	18	220	182	110	10.11	6.11	351	170	0	12	31
10月	20	238	191	105	9.55	5.25	368	175	0	11	31
11月	21	247	213	121	10.14	5.76	413	193	1	12	32
12月	20	237	204	119	10.20	5.95	396	185	0	12	32

	開所 日数	予定 人数	利用 件数	入浴 件数	平均 利用	平均 入浴	送迎	給食	相談	機能 訓練	契約者数
1月	18	214	178	108	9.89	6.00	348	163	0	9	32
2月	19	220	184	61	9.68	3.21	358	164	0	12	32
3月	20	239	200	75	10.00	3.75	392	193	0	0	32
合計	239	2839	2415	1337	10.10	5.59	4689	2220	14	125	-

エ 曜日別利用者数 (単位：人)

	火	水	木	金	土	計
4月	39	42	38	52	29	200
5月	34	61	40	67	23	225
6月	38	45	41	51	36	211
7月	42	60	38	54	30	224
8月	27	43	35	60	38	203
9月	18	47	40	48	29	182
10月	39	42	45	50	15	191
11月	29	46	41	63	34	213
12月	38	49	38	48	31	204
1月	29	31	37	49	32	178
2月	29	28	39	48	40	184
3月	47	46	38	45	24	200

オ 利用者の身体状況

主な疾患は「脳性麻痺」で約7割を占める。障害支援区分5・6の常時介護が必要な利用者は30名(93.8%)であった。

(ア) 障害支援区分 (令和2年3月31日現在) (ウ) (エ) (イ)

	6	5	4	3	計
人数	24	6	2	0	32
%	75.0%	18.8%	6.2%	0%	100.0%

(イ) 手帳所持状況（令和2年3月31日現在）

身体障害者手帳			療育手帳		
等級	人数	%	等級	人数	%
1 級	31	97.1%	A	27	100.0%
2 級	0	0.0%	B 1	0	0.0%
3 級	1	2.9%	B 2	0	0.0%
			なし	0	0.0%
計	32	100.0%	計	27	100.0%

カ 利用者在籍期間（令和2年3月31日現在）

利用期間	～3 年 未満	～5 年 未満	～7 年 未満	～10 年 未満	10 年 以上	計
人 数	0	4	8	4	16	32

キ 行事実施状況

日程	内容	実施日数	延べ人数
R 元. 8. 17	夏のレクリエーション（～8. 31）	11 日	103 人
10. 30	お出かけ会（伊丹スカイパーク）	2 日	5 人
11. 7			
11. 19	食事会（伊丹イオンモール）	1 日	3 人
11. 28	買い物外出（伊丹イオンモール）	1 日	2 人
12. 11	クリスマス会（～12. 14）	4 日	56 人

2 温水プール事業（生活介護事業外事業）

(1) 前年度から 14 人の新規登録があり、令和元年度末の登録者数は身体障害者手帳所持者 67 人、療育手帳所持者 10 人、合計 77 人であった。

(2) 年間延利用者数は、身体障害者 2,993 人、知的障害者 115 人、介護者 531 人、計 3,639 人。

新型コロナウイルス感染防止のため、3月は休止となった。昨年度より648人減となった。

(3) 月別利用者数状況

(単位：人)

	開所 日数	手帳種別		付添	合計
		身体	療育		
4月	16	230	6	29	265
5月	20	287	7	45	339
6月	21	323	9	51	383
7月	21	349	13	52	414
8月	17	238	13	51	302
9月	18	284	17	58	359
10月	20	282	11	59	352
11月	21	285	11	67	363
12月	19	229	11	43	283
1月	16	233	4	36	273
2月	19	253	13	40	306
3月	-	-	-	-	-
合計	208	2,993	115	531	3,639

3 地域との交流活動

日程	内容	対象
R元. 6. 26	尼崎市立あまよう特別支援学校からの施設 実習生受入	実習生 1 人
7. 4		実習生 1 人
R2. 1. 23		実習生 1 人
R元. 8. 1	尼崎市立あまよう特別支援学校の教職員研修 見学会	教員 7 人
11. 2	吹奏楽グループ 「弁天ウインドアンサンブル」	ボランティア 24 人 利用者 6 人

4 ボランティア協力による活動（楽器演奏、歌あそび）

日程	内容	対象
R元. 5. 31	学生音楽ボランティア	ボランティア 2 人 利用者 14 人
6. 22		ボランティア 2 人 利用者 8 人
7. 27		ボランティア 2 人 利用者 8 人
8. 22		ボランティア 2 人 利用者 8 人
10. 24		ボランティア 2 人 利用者 9 人
12. 12		ボランティア 2 人 利用者 10 人
R2. 2. 19		ボランティア 3 人 利用者 9 人
R元. 12. 13	オカリナ演奏ボランティア	ボランティア 1 人 利用者 12 人

5 消防訓練

日程	内容	参加人数（人）
R 元. 4. 24	火災避難（1 階厨房）	20
5. 22	火災避難（1 階厨房）	21
6. 21	火災避難（1 階厨房）	22
7. 31	火災避難（1 階厨房）	21
8. 31	火災避難（2 階浴室）	17
10. 2	火災避難（1 階ボイラー室）	22
10. 26	地震及び津波避難	15
11. 29	火災避難（1 階厨房）	23
12. 26	火災避難（2 階介護室）	16
R2. 1. 21	火災避難（1 階厨房）	19
2. 4	消防署との合同訓練 火災避難（1 階厨房）	26
3. 11	救助担架を使った訓練	9

6 関係機関との連携

利用者にとって、よりよい地域生活が送れるように、相談支援事業所及び他施設（身体障害者福祉センターを含む日中活動事業所）を利用されている利用者のカンファレンス等で利用者合同支援会議を行った。サービス等利用計画をもとに、他事業所の利用状況も踏まえた支援を行った。

【職員研修及び会議等】

1 研修会・会議・講習会等への参加状況

日程	内容	場所	参加者
R 元. 6. 20	障害福祉新任職員研修	兵庫県福祉人材研修センター	介護員
7. 6 9. 7	口腔ケア研修会 （ベーシックコース）	尼崎市歯科医師会館	介護員
10. 8	新任職員ステップアップ研修	兵庫県福祉人材研修センター	介護員
11. 21 11. 22	兵庫県サービス管理責任者等基礎研修	兵庫県総合リハビリテーションセンター	介護員
R2. 1. 16	防災研修	あまよう特別支援学校	所長
1. 29 1. 30	安全衛生推進者養成講習	尼崎商工会議所	所長
1. 30	救命講習会講師派遣	尼崎市立身体障害者福祉センター	看護師
2. 13	兵庫県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者更新研修	兵庫県総合リハビリテーションセンター	係長

2 施設内勉強会（研修参加者による伝達勉強会）

実施日	内 容	報告者
R元. 7.24	口腔ケア研修会	介護員
	医療従事者が知っておきたい基礎知識	看護師
	ヒヤリハット（インシデント）について	係長
11.24	福祉施設における感染対策（実技研修）	看護師
	利用者の生活を支える障害福祉施設職員の役割と専門性	介護員
R2. 3.25	利用者の急変時対応について（グループワーク）	看護師

尼崎市立あこや学園

【総括】

市立の児童発達支援センターとして、日々療育水準の維持向上に努め、園児・保護者が安心して安全に通園できる運営を心がけた。そして、事業所による自己評価の中で目標とされていたペアレントトレーニングを実施し、保護者支援を充実させた。

また、非常時の連絡方法として「ミマモルメ」を導入の上、既存の防災計画を見直し、新たな計画案を作成するとともに、福祉避難所マニュアルの作成、保存食の試食等も行った。

保育所等訪問支援事業においては、児童発達支援管理責任者が兼務となったが、訪問支援員に新規で取り組む職員を増やす等の工夫をして実施した。

令和2年3月3日以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休園を余儀なくされたが、園児や保護者の在宅でのストレスや不安の軽減を図るため、園開放・電話相談などを行った。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	保育所等訪問支援事業の充実に向けて、関係機関への周知活動を積極的に行い、相互の理解と連携を深める。	卒園児のアフターケア（14名）として、進路先の学校園と情報共有を行った。また、尼崎市小学校特別支援学級担任会からの依頼により、支援学級の教職員を対象に、あこや学園の見学及び療育について伝える機会を設けた。 子どもの育ち支援センターからは、作業療法士・公認心理師の研修受入れを行い、相互の連携を深めることに努めた。
2	関係機関懇談会等を通じて、地域への情報発信を行い、交流の機会をつくる。	関係機関懇談会では、38名の参加をしていただくことができた。その中で、他の事業所との情報交換を持つ機会が増え、9回の支援会議の実施をスムーズに進めることができた。
3	地域の支援機能充実に向けて、きらきらクラブ・わくわくクラブの取組を定着させる。	南北の地域保健担当の保健師に案内を行い、事業の周知を図った。その結果、問い合わせが10件を超えてあった。

【事業の実施内容】

1 児童発達支援事業

令和元年度用「あこや学園の療育」(冊子)を作成し、職員・保護者に配布し、その内容に基づき療育を実施した。

(1) 在籍園児の状況

ア 月別在籍数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初日在籍数	47	47	47	48	48	48	48	49	50	49	49	49	
入園	15		1				1	1					18
卒退園									1			17	18

イ 園児疾患別状況(重複あり)

原因及び病名	男					女					合計
	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	
知的障害		1			1			1		1	2
自閉症スペクトラム		1	4	8	13			2		2	15
広汎性発達障害				1	1					0	1
発達遅滞				1	1					0	1
ダウン症候群		1	2		3		1	3		4	7
その他の先天性障害		2		3	5	1			1	2	7
てんかん		2		1	3			1		1	4
身体疾患	2	1			3			1		1	4
その他・未診断	4	7	3		14	1		1		2	16
計	6	15	9	14	44	2	1	9	1	13	57

(2) 行事の実施状況

頻度	内容	対象
年 13 回	親の会役員会	親の会役員 施設長・副施設長 チーフ
年 13 回	親の会(保護者研修 5 回を含む)	保護者

日程	内容	対象
H31. 4. 4	新入園児説明会	4 月新入園児
4. 9	入園式・進級式	全園児
R 元. 5. 10	春の遠足（笹原公園）	全園児・保護者
5 月下旬	家庭訪問	全園児宅
5. 9	卒園児アフターケア（～6. 3）	卒園児
5. 19	父親 1 日保育	全園児・保護者
6. 6 他 5 日	母親 1 日保育	園児（3 歳児以上） 保護者
7. 4 11	プール遠足 （大阪市舞洲障がい者スポーツセンター）	全園児 保護者
7. 5	七夕のつどい	全園児
7 月初旬	クラス懇談会	保護者
7. 20	夕涼み会	全園児・保護者
7. 22	同窓会	卒園児・保護者
8. 9	夏休み期間（～8. 23）	全園児
9. 2 他 6 日	母親 1 日保育	園児（3 歳児以上） 保護者
10. 13	運動会	全園児・保護者
10. 27	父親 1 日保育	全園児・保護者
11. 1	秋の遠足（神戸市立王子動物園）	全園児・保護者
11. 18	関係機関懇談会	関係機関
12. 3	おもちつき会	全園児・保護者
12 月初旬	クラス懇談会	保護者
12. 13	クリスマス会	全園児
12. 25	冬休み期間（～1. 7）	全園児
R2. 1. 31	節分（豆まき）	全園児
2. 2	生活発表会	全園児・保護者
2. 7 他 3 日	新入園児面接・観察	新入園児 保護者
2. 28	ひなまつり	全園児
3. 1	父親 1 日保育	全園児・保護者
3. 16 他 4 日	新入園児契約	新入園児 保護者
3. 25	卒園式	卒園児・保護者
3. 25	春休み期間（～4. 8）	全園児

※ 3 月 3 日から 25 日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休園

(3) 事業の実施状況

事業名	対象	実施回数
むこっこ保育園とのリズム交流	4・5 歳児	4 回 (2 回はあこやで実施)
保育所交流	5 歳児と保護者	七松保育所 6 回 (3 回はあこやで実施) 次屋保育所 6 回 (3 回はあこやで実施)
立花ひよこ保育園との交流	2・3 歳児	1 回
ペアレントトレーニング	5 歳児保護者	5 回 (暴風警報で休園となったため 1 回中止)

2 保育所等訪問支援事業

保育所等訪問支援計画に基づき、月 1 回程度、保育所・幼稚園を訪問し障害児が集団の場で生活しやすくなるよう、関りの工夫や配慮点を担当の先生や保護者と一緒に検討し提案した。

令和元年度は、職員の異動により児童発達支援管理責任者が 1 人体制となったため、兼務とした。そして、訪問職員（保育士）に新規で 3 人に担当させた。

平成 30 年度からの継続 2 件と新規件数 1 件の合計 3 件の利用があった。

3 地域支援及び関係機関との連携

子どもの発達に不安を感じている親子を対象に、保育士・臨床心理士による遊びの広場を開催した。

園児の卒園後の移行支援として、保護者に「あまっこファイル」や「サポートブック」の作成を支援し、卒園後の進路先の職員との情報の引継ぎ等に活用し、連携に努めた。

また、家庭児童相談課や要保護児童対策地域協議会対象の園児については、こまめに担当職員と連携を取りながら定期的に支援会議を行い、丁寧な支援を心がけた。

事業名	対象	実施回数・参加数
きらきらクラブ	2・3 歳の子どもと保護者	I 期 10 回 3 人 II 期 10 回 9 人 III 期 10 回 9 人
わくわくクラブ	4・5 歳の子どもと保護者	I 期 10 回 2 人 II 期 10 回 3 人
園庭開放	地域の乳幼児から小学校 3 年生までの親子	毎週水曜日
関係機関懇談会	市の関係機関、特別支援学校、児童発達支援事業所 等	H31. 11. 18 実施 38 人 参加
支援会議	要保護児童対策地域協議会個別ケース 検討会議	5 回
	支援会議	4 回

【職員研修及び会議等】

(研修)

参加日	内容	場所	参加者
H31. 4. 15	リズム研修	あこや学園	新採採用・異動職員
4. 22	マカトン研修（施設内研修）	あこや学園	新規採用・異動職員
4. 25	エビペン研修（施設内研修）	あこや学園	新採採用・異動職員
R 元. 5. 16	普通救命講習	尼崎市防災センター	保育士
6. 1	マカトン研修	アネックスパル法円坂	保育士
6. 7	進路研修（施設内研修）	あこや学園	職員全員
6. 26	RST（呼吸ケアチーム）研修	身体障害者福祉センター	看護師
6. 18	兵庫県立阪神特別支援学校 小学部説明会	兵庫県立阪神特別支援学校	施設長 保育士
6. 28	あまよう特別支援学校説明会	あまよう特別支援学校	施設長
6. 29 他 3 日	発達障害実務者養成講習会 （児童期）	中央労働センター	保育士
7. 2	虐待対応研修	身体障害者福祉センター	施設長
8. 1 2	相談支援従事者初任者研修・サービス 管理者責任者等基礎研修合同講義	明石市民会館	保育士
8. 8	安全運転者管理者等講習会	兵庫県民会館	施設長
9. 12	サービス管理者責任者等基礎研修	明石市民会館	保育士
10. 10	兵庫県立阪神特別支援学校 小学部説明会	兵庫県立阪神特別支援学校	副施設長
10. 21	障害児通所支援事業所研修会	兵庫県民会館	施設長
11. 28	全事協近畿ブロック指導者の 育成に関する研修	堺市産業振興センター	副施設長
11. 28 29	サービス管理者責任者等基礎研修	総合リハビリテーションセン ター福祉のまちづくり研修所	保育士
12. 18	安全衛生者推進者講習会	神戸製鉄所コミュニ ティセンター	施設長
R2. 1. 16	防災研修	あまよう特別支援学校	副施設長
2. 4	サービス管理責任者等更新研修	総合リハビリテーションセン ター福祉のまちづくり研修所	施設長
2. 5	障害児通所支援事業所研修会	ピフレホール	副施設長
2. 12 13	近畿知的障害関係施設職員研修会	ホテルクラウンパレス 神戸	保育士
2. 19 20	相談面接技術研修	兵庫県福祉人材研修 センター	保育士

(会議)

頻度	内容	場所	対象
年間 6 回	尼崎市自立支援協議会あまっこ部会	身体障害者福祉センター	施設長
1 回／4 週	尼崎市介護保険認定審査会	尼崎市役所	施設長
H31. 4. 24	阪丹地区知的障害者施設協会総会	三田市商工会館	施設長 副施設長
R 元. 5. 7	第 13 回兵庫県のじぎくスポーツ 大会準備会議	兵庫県福祉センター	施設長
5. 16	兵庫県知的障害者施設協会児童発 達支援部会	神戸市立総合福祉 センター	施設長
5. 24	尼崎市手をつなぐ育成会総会	尼崎市立中央北生涯 学習プラザ	施設長
5. 25	第 13 回兵庫県のじぎくスポーツ 大会	県立三木総合防災 公園・陸上競技場	施設長 副施設長
5. 27	兵庫県知的障害者施設協会総会	兵庫県福祉センター	施設長
6. 28	第 1 回尼崎市社会保障審議会民生 委員審査専門部会	尼崎市役所 議会棟	施設長
7. 18	尼崎市教育支援委員会（第 1 回）	尼崎市教育・障害福祉 センター	施設長
9. 6	第 2 回尼崎市社会保障審議会民生 委員審査専門部会	尼崎市役所 議会棟	施設長
9. 19	尼崎市教育支援委員会（第 2 回）	尼崎市教育・障害福祉 センター	施設長
11. 13 14	尼崎市教育支援委員会「専門部会」	尼崎市教育・障害福祉 センター	施設長
11. 28	尼崎市教育支援委員会（第 3 回）	尼崎市教育・障害福祉 センター	施設長
R2. 1. 9	兵庫県知的障害者施設協会児童発 達支援部会	神戸市立総合福祉 センター	施設長
1. 12	成人式・還暦祝と新年おめでとう会 主催：尼崎市心身障害児（者）父母連合会）	あましんアルカイック ホール・オクト	施設長
1. 29	令和 2 年度新入園調整会議	あこや学園	施設長 副施設長 児発管
3. 5	第 2 回尼崎市社会保障審議会民生 委員審査専門部会	尼崎市役所 議会棟	施設長

【その他】

1 ミマモルメの活用

非常時における利用者への連絡手段として、一斉メール配信サービス「ミマモルメ」を6月より導入した。令和元年度は、事業の中止連絡4回、休園に関する連絡7回、合計11回の配信を行った。

2 児童発達支援管理責任者の育成

令和元年度は、児童発達支援管理責任者が1名体制となったため、保育所等訪問支援事業との兼務とした。常に複数配置を維持するために、児童発達支援管理責任者研修を1名受講させた。

3 防災計画の見直し

各種防災計画、災害時及び緊急時対応マニュアルの見直し、また福祉避難所開設マニュアルの作成をし、尼崎市福祉課に報告した。

4 災害訓練の実施

全11回実施（3月は休園のため中止）

内容	回数
火災訓練	7回
総合消防訓練	2回（R元.6.24、11.28）
地震	1回（R2.1.27）
津波	1回（R2.2.10）

相談支援事業担当

【総括】

平成 30 年度報酬改定により、計画作成のモニタリング期間が見直され、令和元年度更新時若しくは変更申請時からモニタリングの実施が6か月から3か月へと移行した。この移行は、利用者の状況等応じた適切な頻度でモニタリングを行うことにより、利用者との信頼関係の醸成を図り、計画相談支援等の質の向上を図ることを目的としたものである。また、他事業所の職員等との信頼関係を醸成することができれば、利用者の状況変化等が生じた場合でも迅速に情報を把握することができるため、早期に支援方針の変更の検討等を行うことが可能となる。これらのことにより、利用者がより適切な支援につながることを期待されている。しかしながら、このたびの期間の見直しにより、事務手続き等は煩雑な状況となっている。

相談支援事業担当では、計画作成を行う指定特定相談支援、障害児相談支援のみならず、尼崎市委託相談支援事業、基幹相談支援センター等機能強化事業を行っており、行政や関係機関、他の相談支援事業所とも連携が深い。専門的な相談支援を行う尼崎市委託相談支援事業所の中でもリーダー事業所としての役割を求められている。基幹相談支援担当が中心となって、各相談支援事業所への情報発信、連携会議やスキルアップ研修を企画し、行政とともに開催してきた。

事業団内の4つの相談支援事業所が集約され3年目となる令和元年度は、相談支援事業担当の人材育成をいかに進めるかを整理し、必要な研修を計画的に行えるよう研修担当者を配置した。研修計画の策定に当たっては、兵庫県福祉人材研修センターの職場研修アドバイザー事業を活用することで、専門的な助言を受けながら効果的に研修計画案を作成することができた。

【事業計画における目標項目の達成状況】

目標項目		達成状況
1	基幹相談支援、委託相談支援、特定相談支援、障害児相談支援の縦横連携を強化し、様々な相談に対応できるよう努める。	基幹相談支援強化事業が中心となって行う担当者会を活用する中で、他事業所と情報を共有し、困難事例への対応や社会資源についての情報を交換する機会を持つことができた。

目標項目		達成状況
2	実施標準期間が見直される継続サービス利用支援、継続障害児支援利用援助（モニタリング）については質の低下につながらないよう、他事業所とも連携を図りながら作成を進める。	本人中心支援の視点を重視した、わかりやすい計画書やモニタリング報告書の作成事例については、相談支援事業担当内で紹介し、情報共有を行うことで、各担当者が計画作成を行う際の参考とするようにした。 モニタリング期間が短くなったため生じる手続きの煩雑さについては、あまがさき相談支援連絡会等の場で簡略化できる事務手続方法を行政に提案した。
3	尼崎市において医療的ケアを要する障害児が適切な支援を受けられるよう、地域の情報の共有化及び多職種・多機関間の連携推進に向けて、そのための協議の場の設置や運営のあり方等について、尼崎市と共に検討する。	協議の場を、あまっこ部会における医療的ケア児支援部会へ位置づけし、論議していくこととした。 また、医療的ケア児コーディネーター阪神圏域連絡会に参画し、医療的ケア児支援部会、事務局会議において阪神間の状況を報告した。
4	相談支援専門員としての資質の向上、指導者としてのスキルアップのために必要な研修について検討整理を行い、計画的かつ効果的な受講を図る。	令和元年度より研修担当を設け、職員全員に行ったアンケートをもとに研修の種別や頻度、優先順位を精査した。 研修計画の検討にあたっては、兵庫県福祉人材研修センターの職場研修アドバイザー事業を活用し、まずは組織内での人材育成の方法について学び、その後職員ワーキングを経て、階層別研修計画案を作成した。 今後、この階層別研修計画により職員の資質の向上を図っていく。

【事業の実施内容】

1 指定特定相談支援事業 指定障害児相談支援事業

障害のある方が尼崎でその人らしく生き生きと過ごすことができるよう共に考え、心身の状況やご本人の意向、利用するサービスや社会資源の内容を記載したサービス等利用計画の作成を行った。また、障害児通所支援サービスの利用に係る障害児支援利用計画の作成を行った。それぞれ一定期間ごとにサービスの利用状況等を振り返り、モニタリング報告書を作成した。令和元年度からモニタリング期間の短縮が本格実施となり、どの事業所も大幅にモニタリング件数が増量した。相談支援事業担当全体ではサービス等利用計画は 537 件と平成 30 年度並みであったが、モニタリング件数は 508 件と前年比 156.3%となった。計画相談支援の契約者計 440 名は、尼崎市内の全計

画相談支援利用者 4,318 名の約 10%に値する。

尼崎市立たじかの園では地域移行、地域定着支援の指定も受けているが、24 時間 365 日体制の人員配置が困難であり、また、計画相談支援の達成率を上げることが急務のため、これらの対応は委託相談の範囲にとどまり、実利用契約に至っていない。

2 尼崎市委託相談支援事業（尼崎市立身体障害者福祉センター、尼崎市立たじかの園）

障害児（者）やその家族などの相談に応じ情報の提供及び助言、障害福祉サービスの利用支援等を行った。また、虐待の防止及びその早期発見に努めるとともに、障害者等の権利擁護のために必要な援助を他機関と連携して行った。

また、尼崎市自立支援協議会あまっこ部会、あまのくらし部会、ガイドライン検討部会に参画し、障害のある人に関する社会資源の情報や支援体制に関する課題の共有を図った。あまっこ部会では医療的ケア支援部会を創設し医療、保健、障害福祉、教育、看護等の関係者とともに協議の場を持った。事務局機能をもつあまがさき相談支援連絡会では、煩雑化する障害福祉サービスの手続き等について、効率的な運用方法について整理し行政へ提案した。

(1) 障害種別

両事業所とも、前年とほぼ同数の利用者数となった。内訳では、身体障害者福祉センターでは関係機関や匿名での相談が増え、その他の利用者数が増えている。尼崎市立たじかの園では、知的障害は委託相談から計画作成へ移行した方が増加したことに伴い、知的障害の方が減少し、児童の身体障害、重症心身障害、発達障害の新規相談が増加した。

（合計は実人数、重複障害はそれぞれに算定）

障害種別	尼崎市立身体障害者福祉センター	尼崎市立たじかの園
身体障害	67	42
重症心身障害	1	12
知的障害	12	72
精神障害	6	12
高次脳機能障害	5	4
発達障害	2	30
難病	12	2
その他（未診断他）	25	281
合計	112	420

(2) 相談方法の状況

身体障害者福祉センターでは、前年比 155.4%と大幅に相談回数が増えている。特に電話での相談が増加した。尼崎市立たじかの園では、前年比 66.3%と相談回数が落ち込んだ。計画相談への移行、職員の欠員が影響していると思われる。

相談方法（延べ件数）	尼崎市立身体障害者 福祉センター	尼崎市立たじかの園
訪問	107 回	82 回
来所	30 回	93 回
同行	23 回	29 回
電話	685 回	466 回
メール	52 回	6 回
個別支援会議	5 回	16 回
関係機関連携	64 回	491 回
その他	4 回	13 回
合計	970 回	1196 回

(3) 相談内容の状況

相談内容内訳でも、身体障害者福祉センターは前年比 155.1%と件数が伸びた。特に不安の解消や家族関係に関する支援は前年に比べて約 2 倍の相談件数となっている。尼崎市立たじかの園では、全体的に相談件数が下がっているが、家計・経済に関する支援はニーズが高い。

相談内容（延べ件数）	尼崎市立身体障害者 福祉センター	尼崎市立 たじかの園
福祉サービスの利用等に関する支援	768 回	723 回
障害や症状の理解に関する支援	231 回	65 回
健康・医療に関する支援	318 回	161 回
不安の解消・情緒安定に関する支援	189 回	56 回
保育・教育に関する支援	11 回	47 回
家族関係・人間関係に関する支援	155 回	108 回
家計・経済に関する支援	38 回	110 回
生活技術に関する支援	329 回	123 回
就労に関する支援	60 回	15 回
社会参加・余暇活動に関する支援	25 回	9 回
権利擁護に関する支援	18 回	29 回
その他	24 回	44 回
合計	2,166 回	1,490 回

3 基幹相談支援センター等機能強化事業

平成 30 年 1 月より南北保健福祉センターが開設されたが、令和元年度は北部保健福祉センターに集約し、令和 2 年度の本格 2 所化に向けて緊密に行政基幹相談支援担当と情報共有を図った。

障害児支援利用計画、サービス等利用計画の作成促進に向け、計画書き方教室やスキルアップ研修の企画運営を行った。指定特定・障害児支援事業所担当者は、障害種別を超えて関心のある会議・研修に参加ができるよう、テーマ別開催に変更し、参加率が上昇した。

(1) サービス等利用計画案作成に係る利用者および事業者との連絡調整等の状況

相談方法	訪問	来所	電話 メール	個別支援 会議	その他 (同行)	合計
延べ利用者 事業者数	43	15	177	7	13	255
延べ相談回数	170 回	52 回	590 回	6 回	27 回	845 回

(2) 相談支援事業者からの相談件数および新規相談支援事業所への初回説明等の状況

相談内容	事業所数	延べ相談回数
計画相談支援業務に関すること	41	84 回
相談支援事業所への説明、状況確認に関すること	25	31 回
困難ケースへの対応に関すること	17	96 回
ガイドラインに関すること	10	15 回
社会資源に関すること	35	42 回
その他	11	13 回
合計	139	281 回

【職員研修及び会議等】

(研修：受講分)

日程	内容	場所	参加者
R 元. 6. 14	高次脳機能障害に関する交流会	宝塚市立西公民館	基幹担当
6. 15	兵庫県相談支援ネットワーク総会 基調講演会	西宮市立勤労会館	基幹担当
6. 18	福祉専門職員対象防災対応力向上 研修	兵庫県福祉センター	基幹担当
6. 24 25	障害児・者相談支援事業全国連絡 協議会コーディネーター研修	グリーンタワー幕張	たじかの園 障害児担当
6. 27	強度行動障害地域生活支援事業 担当市町職員等説明会	神戸市教育会館	基幹担当
7. 24 8. 7	令和元年度相談面接技術研修中級 A	関西学院大学	たじかの園 障害者担当
8. 2	尼崎市障害者就労支援フォーラム	尼崎商工会議所	基幹担当

日程	内容	場所	参加者
8. 6	令和元年度尼崎市要保護児童対策 地域協議会 実務担当者向け 「児童虐待対応の基礎研修」	南部保健福祉センター	基幹担当
8. 7 ～8. 9	令和元年度兵庫県 相談支援従事者現任研修	西宮商工会議所	たじかの園 障害者担当
9. 4 ～9. 6	令和元年度兵庫県 相談支援従事者現任研修	あかし保健所	基幹担当
8. 20 他 3 日	地域福祉研修 社会福祉法人の地域公益活動推進 に資するスキルアップ研修	兵庫県福祉人材研修 センター	身障センター 担当
8. 21	第 10 回社会福祉法人福成会事業所 実践発表会	尼崎商工会議所	基幹担当
8. 26	令和元年度兵庫県相談支援専門 コース別研修 「相談支援×ファシリテーション」	姫路市総合福祉会館	基幹担当
10. 10	安全衛生推進者養成研修	尼崎商工会議所	係長
10. 15 30	令和元年度医療的ケア児等支援者 養成研修	姫路労働会館 兵庫県福祉センター	基幹担当
11. 29	令和元年度アセスメントスキル 向上研修 中堅職員向け高齢・障害コース	兵庫県福祉人材研修 センター	あこや学園 担当
12. 3	精神的に課題のある人の家族への 支援のあり方 ～ヤングケアラーを通じて考える～	教育総合センター	基幹担当
12. 9	第 1 回スキルアップ研修 「長期的な療育経過と保護者支援・ 地域連携」	兵庫県立こども発達 支援センター	あこや学園 担当
12. 16 R2. 1. 23	令和元年度医療的ケア児等 コーディネーター養成研修	兵庫県福祉センター	基幹担当
R 元. 12. 18	阪神圏域相談支援フォローアップ 研修	東りいたみホール	基幹担当 たじかの園 児童担当
12. 19	あまがさき相談支援連絡会 スキルアップ研修 事例検討	フェスタ立花	全担当
R2. 1. 9	第 2 回スキルアップ研修 「発達障害にみられる学習の苦手さ」	兵庫県立こども発達 支援センター	たじかの園 児童担当
1. 17	あまがさき相談支援連絡会スキル アップ研修「アセスメントについて」	北部保健福祉センター	全担当

日程	内容	場所	参加者
1. 18	兵庫県高次脳機能障害 リハビリテーション講習会	神戸国際会館	身障センター 担当 基幹担当
1. 23 24	令和元年度障害児・者相談支援事業 全国連絡協議会コーディネーター 研修会	ホテルガーデンパレス 広島	基幹担当
1. 27	第2回ヤングケアラー事例検討会	ひと咲きタワー	基幹担当
2. 4	あまがさき相談支援連絡会スキル アップ研修「面接技法について」	中央北生涯学習プラザ	全担当
2. 27	指定特定・障害児支援事業者担当者 会テーマ別研修「虐待の未然防止へ ～積極的権利擁護の視点～」	中央北生涯学習プラザ	全担当

(職場内研修)

日程	内容	講師	対象職員
R 元. 8. 30	職場研修アドバイザー事業研修① 「人材育成と職場研修の意味」	兵庫県社会福祉協議会 福祉人材研修センター 松浦剛 氏	全職員
10. 18	職場研修アドバイザー事業研修② 「求められる職員像の描き方」		全職員
11. 15	職場研修アドバイザー事業研修③ 「研修計画の立て方」		正規職員
R2. 2. 21	職場研修アドバイザー事業研修④ 「OJT研修の考え方と方法」		全職員
R 元. 5. 21	弁護士による法律相談 「クレーム対応について」 「事例検討、スーパービジョン」	弁護士 西部智子 氏	身障センター 担当 オープン開催
7. 16	弁護士による法律相談 「生活保護について」		身障センター 担当 オープン開催
11. 19	弁護士による法律相談 「無料低額宿泊施設見学」		身障センター 担当 オープン開催
R2. 1. 26	弁護士による法律相談 「事例検討、スーパービジョン」		身障センター 担当

日程	内容	講師	対象職員
R 元. 5. 14	弁護士による法律相談 「事例検討、スーパービジョン」	弁護士 徳山育弘 氏	たじかの園 障害者担当 オープン開催
7. 2	弁護士による法律相談 「子どもの虐待が疑われる場合の 法的対応について」		たじかの園 障害者担当
9. 10	弁護士による法律相談 「事例検討、スーパービジョン」		たじかの園 障害者担当
11. 12	弁護士による法律相談 「事例検討、スーパービジョン」		たじかの園 障害者担当
R2. 2. 5	弁護士による法律相談 「個人情報保護について」		たじかの園 障害者担当 オープン開催

(研修：講師参加分)

日程	内容	場所	講師
R 元. 9. 6	尼崎市武庫地区民生児童委員 協議会 障がい福祉部会研修 「障害者相談支援事業について」	武庫西生涯学習プラザ	係長
10. 5	聴覚障害（難聴、中途障害）の相談 について	日常生活室	基幹担当

(会議)

(1) 相談支援事業担当内

頻度	内容	場所	対象
年 4 回	4 事業所会議	相談室	全職員
年 3 回	正規職員会議	相談室	正規職員
年 5 回	研修担当者会議	相談室など	係長 研修担当

(2) 尼崎市委託相談支援関係

ア 尼崎市自立支援協議会関係

頻度	内容	場所	対象
年間 4 回	尼崎市自立支援協議会運営会議	北部保健福祉センタ ー	係長 基幹担当
年間 3 回	尼崎市自立支援協議会全体会	視聴覚室他	係長 委託担当 基幹担当

頻度	内容	場所	対象
年間 5 回	あまのくらし部会	研修室	管理者 身障センター 担当
年間 1 回	あまのくらし部会フォーラム	中央北生涯学習プラザ	管理者 身障センター 担当
年間 3 回	あまっこ部会 定例会	研修室	係長 相談支援専門員
年間 3 回	医療的ケア児支援部会 (内 2 回はコアメンバー会議及び 事務局会議)	北部保健福祉センター 尼崎総合医療センター	係長 相談支援専門員
年間 3 回	あまっこ部会 事務局会議、ワーキング	研修室	係長
年間 9 回	あまっこファイル相談会 あまっこファイル書き方教室	研修室	係長
年間 4 回	尼崎市自立支援協議会 ガイドライン検討部会	議会棟会議室他	係長

イ あまがさき相談支援連絡会関係

頻度	内容	場所	対象
年間 8 回	あまがさき相談支援連絡会 代表者会	北部保健福祉センタ ー他	係長 基幹担当
年間 6 回	あまがさき相談支援連絡会 ルーキーズ	北部保健福祉センタ ー他	委託担当 基幹担当

ウ その他

頻度	内容	場所	対象
年間 3 回	障害者差別解消支援地域協議会、 リーフレット作成部会	中央北生涯学習プラ ザ他	係長

(3) 尼崎市基幹相談支援センター等機能強化事業関係

頻度	内容	場所	対象
月 1 回	基幹担当定例会議	北部保健福祉センター	係長 基幹担当
年間 7 回	指定特定・障害児相談支援事業所 担当者会議 テーマ別開催 計画勉強会	北部保健福祉センター	相談支援専 門員
年間 2 回	指定特定・障害児相談支援事業所 担当者会議 全体会	北部保健福祉センター	係長 相談支援専門員

頻度	内容	場所	対象
年間2回	指定特定・障害児相談支援事業所 担当者会議 計画書き方教室	北部保健福祉センター	係長 基幹担当 相談支援専門員
年間1回	グループホーム・短期入所 ネットワーク会議	中央北生涯学習プラザ	基幹担当

(4) その他の会議

頻度	内容	場所	対象
年1回	尼崎市精神障害者地域移行・地域定着支援事業推進会議	フェスタ立花	基幹担当
年1回	いくしあ情報交換会	いくしあ	係長 基幹担当
年1回	尼崎市ケアマネージャー協会ケアマネージャーと相談支援専門員の交流会	中央北生涯学習プラザ	基幹担当 委託担当
年3回	医療的ケア児コーディネーター阪神圏域連絡会	芦屋健康福祉事務所	係長
適宜	要保護児童対策連絡協議会	南北保健福祉センター 他	係長 相談支援専門員

【資料編】

1 計画相談支援、障害児相談支援の状況

尼崎市立身体障害者福祉センター

契約者数 131人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成件数	17	12	10	16	15	11	9	12	13	8	19	6	148
モニタリング件数	7	9	14	24	14	26	18	17	26	20	26	27	228

尼崎市立たじかの園（事業団開設）

契約者数 58人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成件数	5	4	4	3	6	6	4	8	6	5	7	5	63
モニタリング件数	4	5	4	6	7	9	5	7	6	10	8	8	79

尼崎市立たじかの園（市長開設）

契約者数 120人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成件数	28	11	11	12	15	16	8	16	16	12	11	8	164
モニタリング件数	6	10	12	8	12	7	8	6	8	11	7	2	97

尼崎市立あこや学園

契約者数 131名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成件数	43	8	12	10	14	13	10	14	10	10	12	6	162
モニタリング件数	8	7	11	9	4	12	8	11	6	11	10	7	104

研修体系

階層	求められる職員像 (役割・能力)	OJT	OFF-JT		SDS	
			職場内	職場外	職場内	職場外
指導的職員 13～15年	・皆が安心して仕事ができるように組織をまとめ、公平に評価する ・他の組織との窓口の役割を担う	・管理者会議 ・センターミーティング ・ええあん9 ・朝礼 ・4所会議 ・各種ミーティング	・新任、中堅への研修 ・外部研修の報告会	・専門研修 (虐待防止・感染症対策) ・ガバナンス研修 ・コンプライアンス ・メンタルヘルス研修 ・リスクマネジメント研修 ・相談面接技法研修 ・職場間交流研修	・資格取得研修補助 ・課題研究	・異業種交流 ・学会への参加
超中堅職員 8～12年	・身近なリーダーとして周囲からの相談に助言や、調整ができる	・ええあん9 ・朝礼 ・4所会議 ・各種ミーティング	・新任、中堅への研修 ・外部研修の報告会	・専門研修 (虐待防止・感染症対策) ・ガバナンス研修 ・コンプライアンス ・OJTリーダー研修 ・メンタルヘルス研修 ・リスクマネジメント研修 ・相談面接技法研修 ・職場間交流研修 ・接遇マナー研修	・資格取得研修補助 ・課題研究 ・自主研修 ・学習会等の奨励	・異業種交流 ・学会への参加
中堅職員 3～8年	・業務に責任を持ってあたる ・新任層と指導層、管理者との間をつなぐ	・朝礼 ・4所会議 ・各種ミーティング	・外部研修の報告会	・専門研修 (虐待防止・感染症対策) ・ガバナンス研修 ・コンプライアンス ・メンタルヘルス研修 ・リスクマネジメント研修 ・相談面接技法研修 ・職場間交流研修	・資格取得研修補助 ・自主研修 ・学習会等の奨励	
新任職員 ～2年	・積極的に業務にあたり、疑問に感じたことは周囲に聞く	・朝礼 ・4所会議 ・各種ミーティング	・外部研修の報告会	・接遇マナー研修 ・新任職員研修		